



ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.

個人投資家様向け 会社説明資料

2025年 9月版

September 2025 Presentation Material

Tokyo Stock Exchange PRIME section STOCK CODE : 9619



01

イチネングループについて

会社概要 P.4
事業概要 P.5
イチネングループの沿革 P.6

02

イチネングループが向かうところ

イチネングループの強み P.8
PBR向上に向けた対策 P.9
イチネングループ中長期戦略 P.14

03

イチネングループの事業紹介

自動車リース関連事業 P.18
ケミカル事業 P.19
パーキング事業 P.20
機械工具販売事業 P.21
合成樹脂事業 P.22
農業関連事業 P.23
その他事業 P.24

04

決算報告・今期計画

2026年3月期第1四半期 決算報告 P.26
2026年3月期計画（連結） P.29

05

株主還元について

配当方針 P.32
株価の推移 P.33

06

企業価値向上に向けた取り組み

ESG・SDGsの取り組み P.35
ウェブサイト・資料のご案内 P.37

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

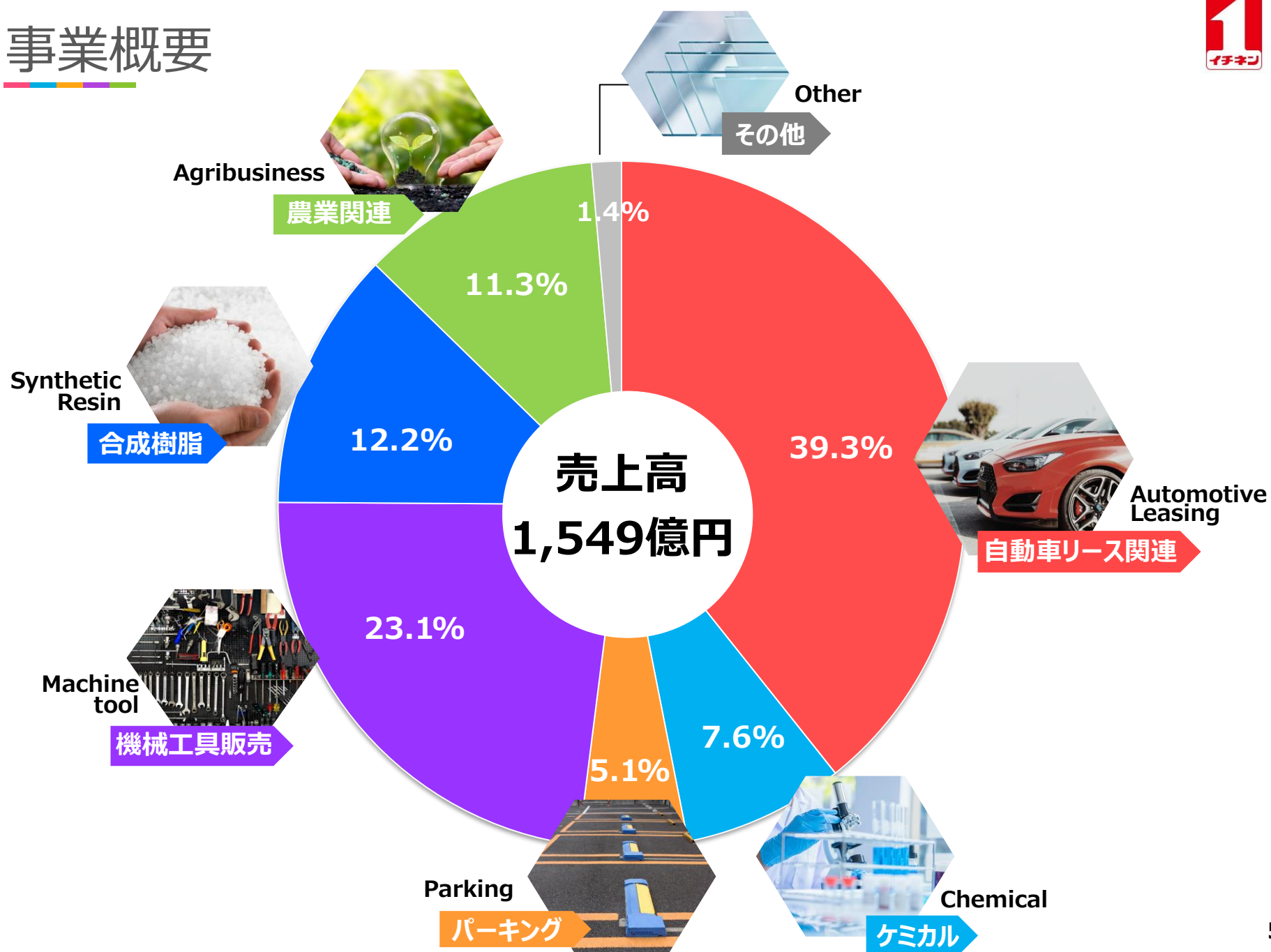
会社概要



■ 商号	株式会社イチネンホールディングス ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD
■ 設立年月日	1963年（昭和38年）5月7日
■ 本社所在地	大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
■ 代表者	代表取締役社長 黒田 雅史(くろだ まさし)
■ 上場	東証プライム（証券コード：9619）
■ 資本金	2,529百万円（2025年3月31日現在）
■ 売上高	154,920百万円（2025年3月期連結実績）
■ 決算月	3月
■ 従業員数	連結2,067人（2025年3月31日現在）
■ 経営理念	当社は、最高の品質とサービスで、より多くの顧客に満足を与え、適正な利潤を確保することにより、株主および従業員に報い、且つ社会に奉仕することを経営の基本理念とする。
■ グループ スローガン	いちねんで、いちばんの毎日。

当社は、一日、一日が最高の毎日（いちねんで、いちばんの毎日）となるように、グループの製品やサービスを通じて皆様に快適さをご提供するとともに、SDGs、脱炭素等の環境に配慮した製品・サービスの開発を進め、持続可能で豊かな社会に貢献できる事業の拡大を目指してまいります。

事業概要



沿革

イチネングループは石炭販売から新たな可能性を追求し、多様な事業を通じて、時代とともに発展してまいりました。

1930

創業

石炭から石油へ転換



- 1930 黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始
- 1963 黒田商事(株)設立、EMGマーケティング(同)と販売代理店契約締結



1969~

自動車関連分野に参入

自動車分野を中心に成長



- 1969 商号を(株)イチネンに変更、自動車リース業を開始
- 1980 自動車メンテナンス受託事業を開始
- 1994 大阪証券取引所市場第二部(旧：新二部) 上場
- 2000 野村オートリース(株)、アルファオートリース(株)をグループ会社化
- 2002 パーキング事業を開始
- 2004 (株)コーザイをグループ会社化、自動車・産業用ケミカル事業に参入
- 2005 東京証券取引所市場第一部、大阪証券取引所市場第一部上場
- 2006 タイホー工業(株)をグループ会社化、(株)コーザイと合併し、(株)タイホーコーザイ(現：(株)イチネンケミカルズ)に商号変更



2008~

多角化経営へ

自動車の変革を見据え、新たな事業へ参入



- 2008 持株会社体制へ移行、商号を(株)イチネンホールディングスに変更(株)イチネンパーキング営業開始(パーキング事業部を新設分割)
- 2009 黒田雅史が代表取締役社長に就任
- 2012 前田機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。(株)ジコー(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業に参入



2013

各事業の強化

M&Aを通じた事業多角化の強化

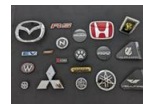
- 2013 タスコジャパン(現：(株)イチネンTASCO)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2014 (株)ミットモ製作所(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2015 東電リース(株)をグループ会社化、(株)イチネンTD リースに商号変更
- 2016 (株)イチネン農園を設立し、農業に参入



- 2017 グループの物流業務効率化を目的とし、株式会社イチネンロジスティクスを設立。(株)イチネンケミカルズ 研究開発センターを移転(神奈川県藤沢市)
- 2018 昌弘機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)及び(株)トヨシマ(現：(株)イチネンMTM)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化(株)イチネンとイチネンBPプラネット(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併(株)イチネン前田と(株)イチネンミットモ、(株)ゴンドー、(株)イチネンSHOKO、(株)トヨシマが、(株)トヨシマを存続会社として合併し、(株)イチネンMTMIに商号変更(株)イチネン農園の事業の一部を会社分割し、(株)イチネン 高知日高村農園を設立
- (株)アクセス(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2020 (株)浅間製作所(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業を強化

現在

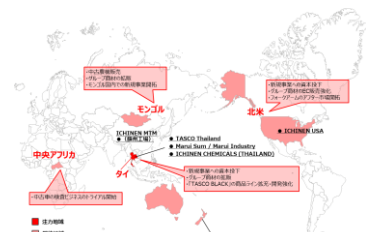
- 2021 新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業に参入
- 2022 (株)オートリをグループ会社化し、パーキング事業を強化(株)イチネンMTMの事業の一部を(株)アクセスへ吸収分割により 継承し、(株)アクセスは(株)イチネンアクセスへ商号変更(株)浅間製作所と(株)浅間製作所は、(株)浅間製作所を存続会社として合併し、(株)イチネン製作所へ商号変更東京証券取引所市場再編に伴い、プライム市場に移行
- 2023 (株)イチネンパーキングと(株)オートリは、(株)オートリ存続会社として合併し、(株)イチネンパーキングへ商号変更マルイ工業(株)と日東エフシー(株)をグループ会社化し、合成樹脂事業ならびに農業事業を強化
- 2025 日石硝子工業(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業を強化



海外進出強化へ

P.12を参考

イチネングループは、これまで培った事業基盤と信頼をもとに、さらなる海外市場の開拓に挑みます。



01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループの向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

1

単一事業に
偏らない

多角化経営

2

収益機会の
創出

ニッチ市場の開拓

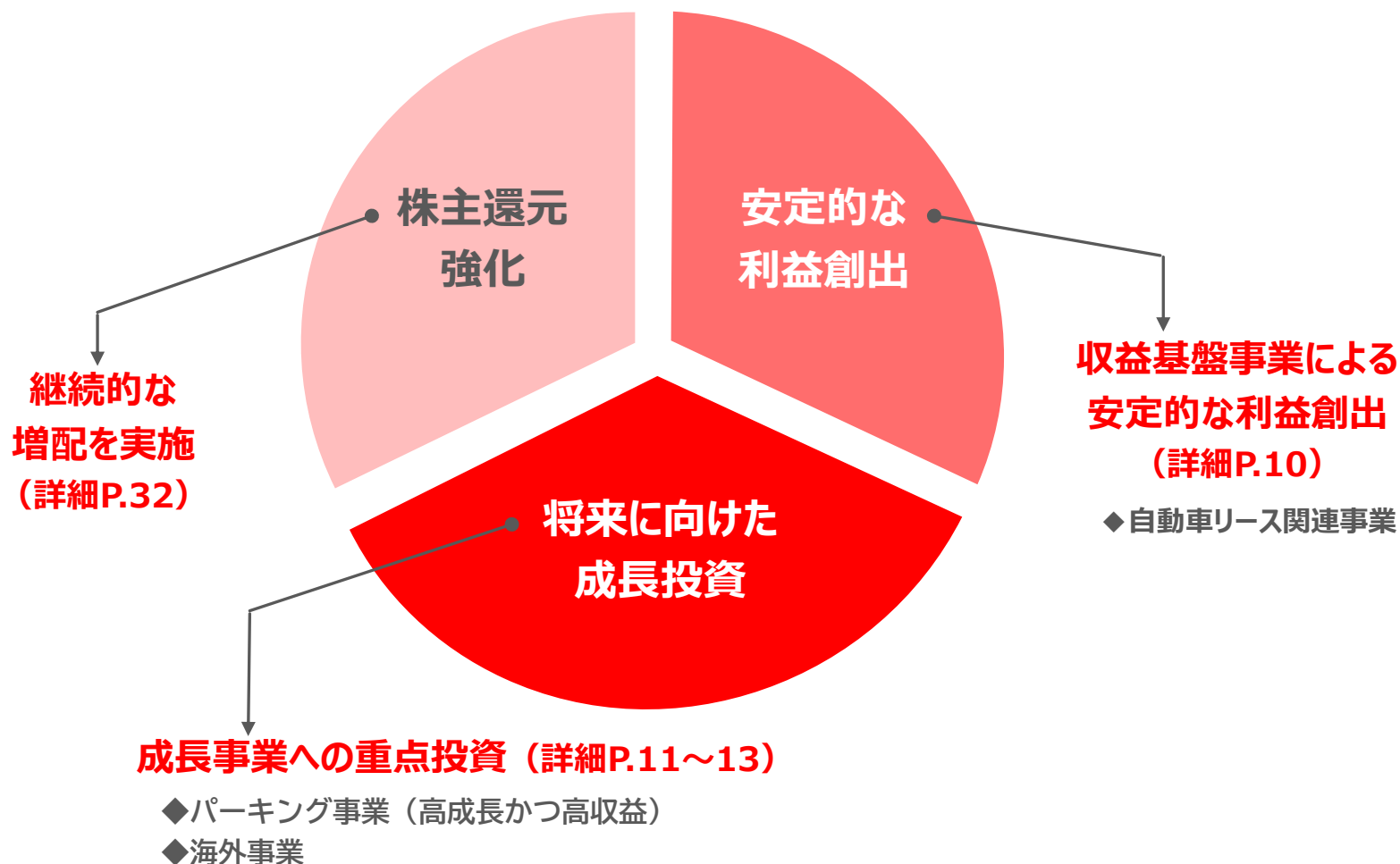
102億円

連結営業利益

22期連続の増益



イチネングループのPBR改善策 3本柱



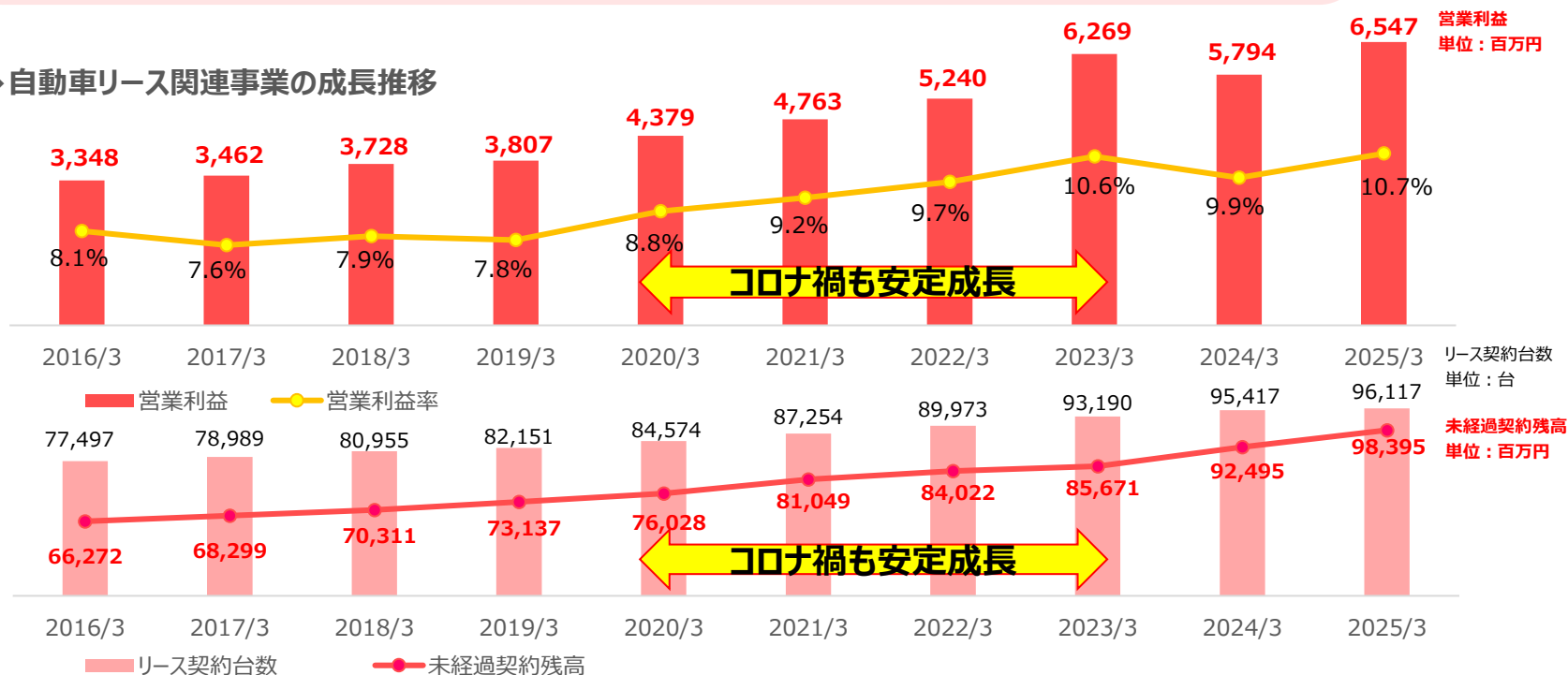
安定的な利益創出

自動車リース関連事業は、グループの収益基盤事業として
今後も規模拡大に注力し、**安定的な利益創出を実現します**

POINT

- 安定的な利益成長により、**グループの盤石な収益基盤を形成**
- EV化が進んでも、リース契約台数は今後も継続伸長が見込める
- 収益基盤事業の安定的な利益をベースに、**成長事業への投資を加速**
- コロナ禍においても**安定した業績を維持・成長**

◆自動車リース関連事業の成長推移



将来に向けた成長投資

①パーキング事業への積極投資

高成長かつ高収益なパーキング事業に積極投資を実施

■ 駐車場の新規設備投資による稼働率向上

キャッシュレス決済、フラップレス駐車場の導入を加速し、利便性向上による顧客獲得、稼働率の向上に繋げる

■ M&Aによる事業規模拡大

2022年3月に(株)オートリ(2023年4月にイチネンパーキングと合併)を子会社化

②海外事業への投資拡大

海外売上高比率20%の達成に向け、積極的な取り組みを実施

■ 注力地域、期待地域での事業拡大（詳細はP12）

※注力地域：タイ、期待地域：北米、中央アフリカ、モンゴル等

■ M&Aの更なる強化、スピードアップ

- 海外に一定の事業基盤を持つ国内企業のM&Aを推進
- 当社事業と親和性のある海外企業のM&Aを検討

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～

グループ拠点

4か国 (タイ、アメリカ、中国、ニュージーランド)

グループ会社

7社 ※非連結含む

◆タイ

TASCO Thailand 【機械工具販売事業】
Marui Sum / Marui Industry 【合成樹脂事業】
ICHINEN CHEMICALS (THAILAND) 【ケミカル事業】

◆ニュージーランド

ICHINEN AUTOS NZ 【自動車リース関連事業】

◆アメリカ

ICHINEN USA 【機械工具販売事業】

◆中国

蘇州豊島機械配件有限公司 【機械工具販売事業】

海外戦略

■注力地域:タイにおける既存事業の拡大

- 空調工具の独自ブランド「TASCO BLACK」の商品ライン拡充・開発強化
- グループ商材のタイにおける拡販（タイ合併会社の有効活用）

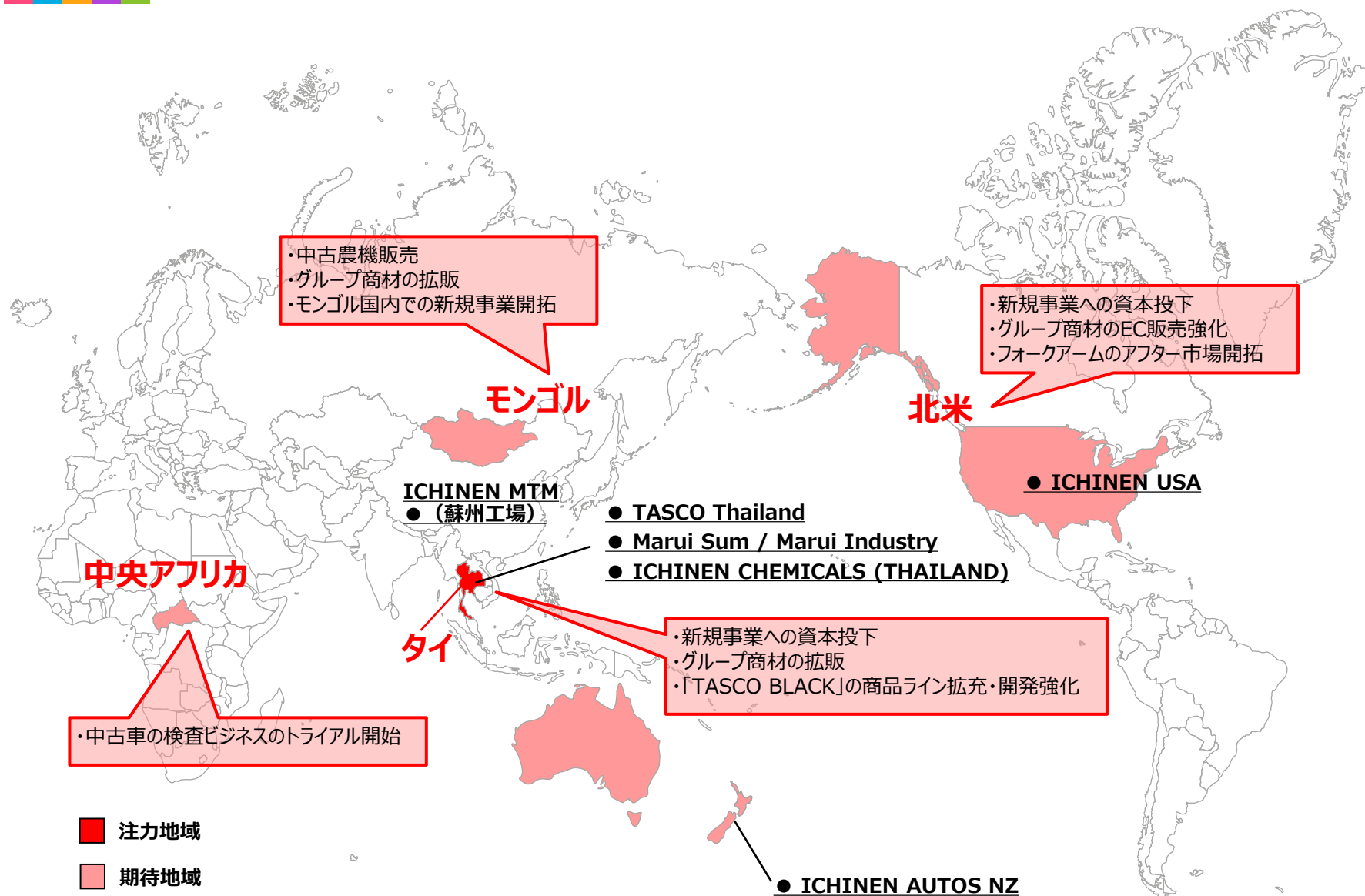
■期待地域:北米、モンゴル、中央アフリカ等における新規事業展開

- 北米における新規事業展開の検討
- モンゴル、中央アフリカ等への中古車/中古農機の輸出販売の推進

直近の進捗

- ✓ 2023/10/16付で、自動車用内外装部品の製造・販売を行うタイの子会社2社を含む**マルイ工業**がグループ入り
- ✓ 2025/8/1付で、タイでのイチネンケミカルズ製品の売上拡大を目的に、
ICHINEN CHEMICALS(THAILAND) を設立

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～

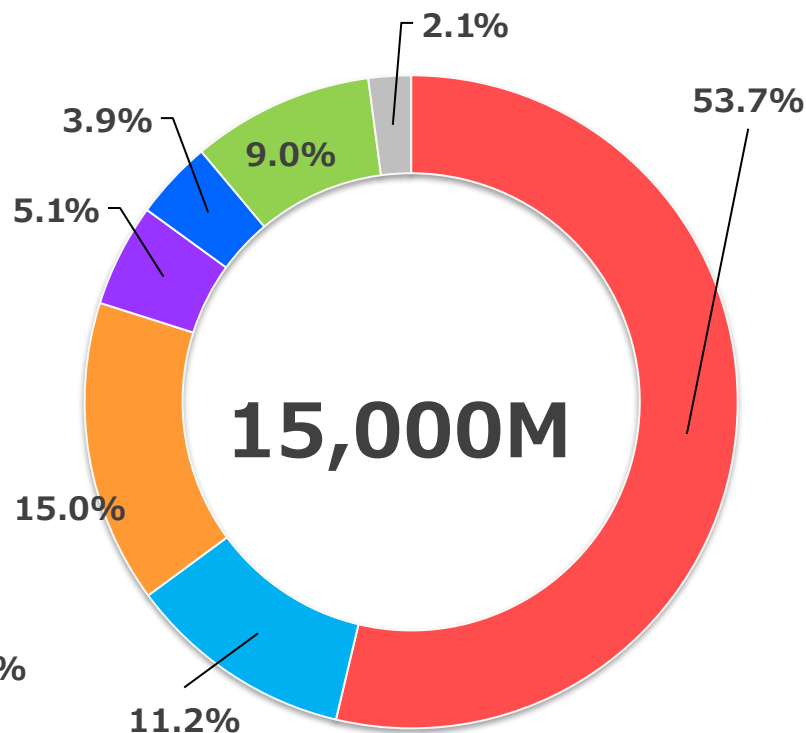
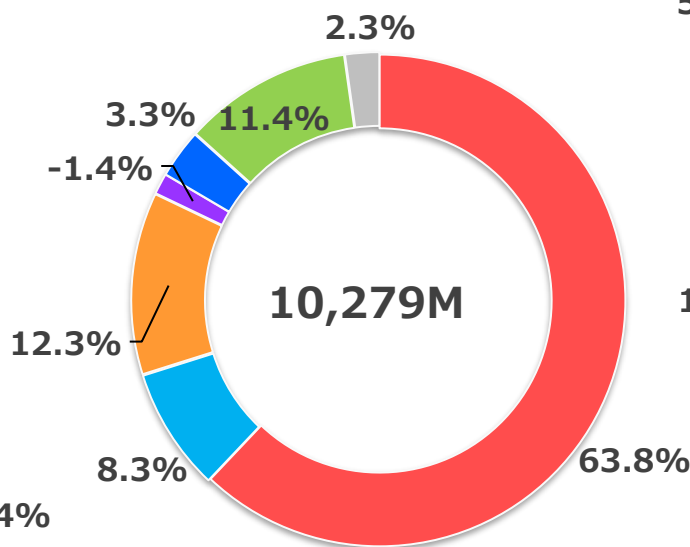
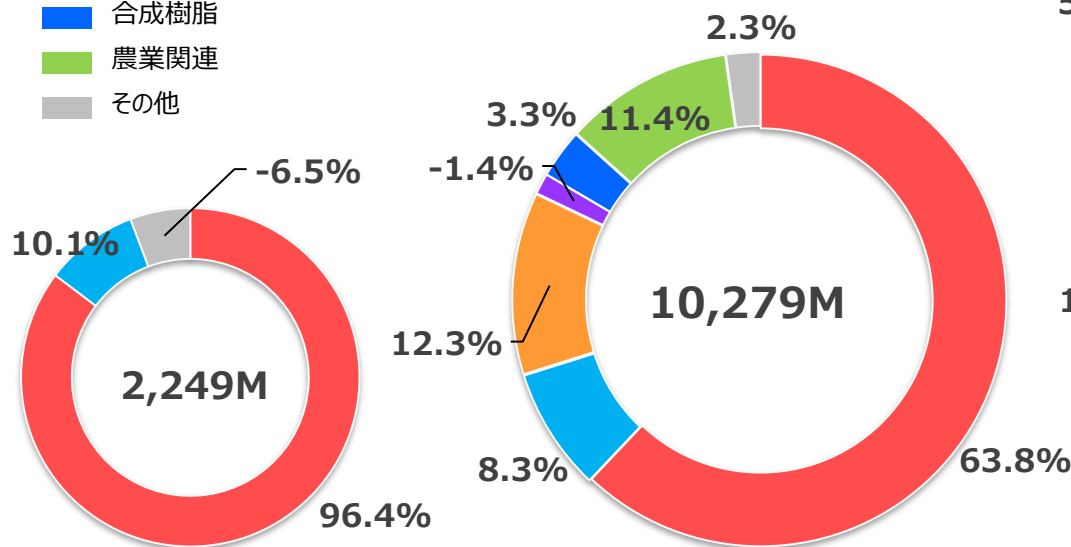


中期目標



営業利益構成比（単位：円）

- 自動車リース関連
- ケミカル
- パーキング
- 機械工具販売
- 合成樹脂
- 農業関連
- その他



経営方針

- 既存事業**：自動車リース関連に次ぐ事業の柱の育成
（各セグメントの成長による収益源の分散化）
- 新規事業**：M&A・事業提携等による新規事業領域の拡充
- 財務方針**：財務健全性の維持と成長投資を両立

中期目標

【中期目標】

- 営業利益**：150億円
- 自己資本**：750億円超
- 自己資本比率**：35%超

成長戦略

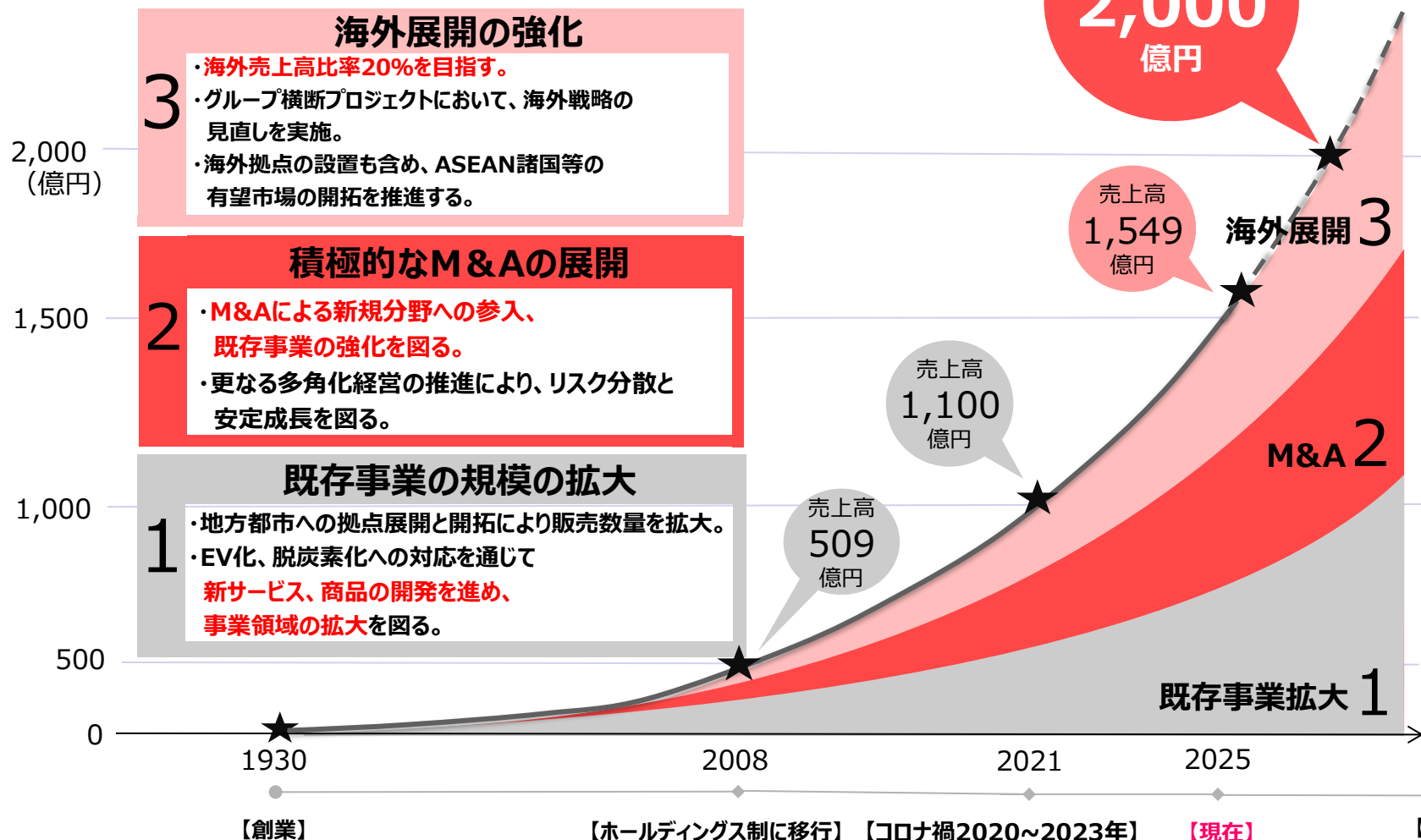
長期経営数値目標

売上高

2,000 億円

営業利益

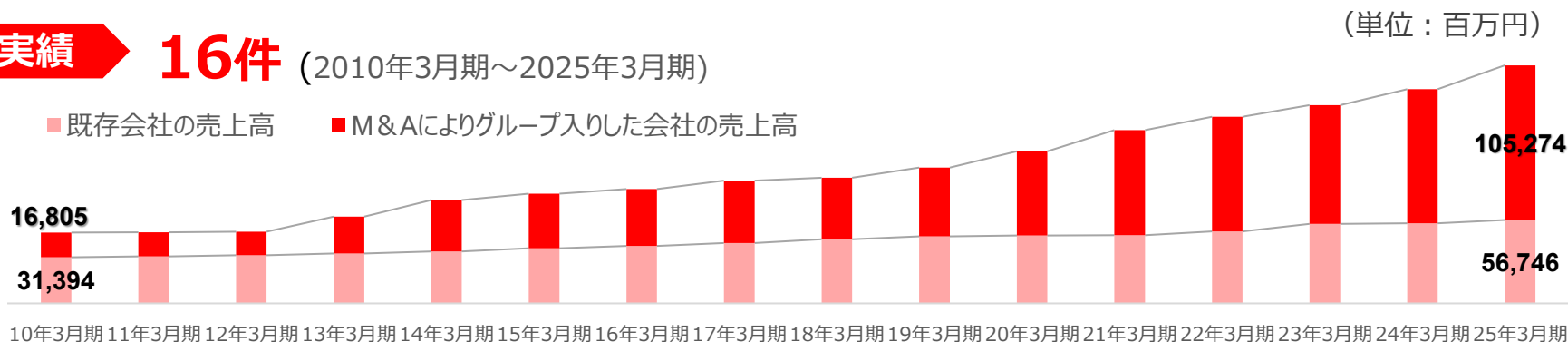
200 億円



目的 事業の多角化・企業規模の拡大を推進

基準 グループ入り後 **ただちに業績に寄与** すること

実績 **16件** (2010年3月期～2025年3月期)



直近の実績

◆ マルイ工業株式会社

海外拠点の獲得

【グループ入り】2023年10月16日

【事業内容】自動車内外装部品の製造・販売（合成樹脂事業）

【拠点】本社：新潟県 胎内市

海外：タイ（子会社2社あり）

◆ 日東エフシー株式会社

農業関連事業の規模拡大

【グループ入り】2023年11月30日

【事業内容】肥料の製造・販売（農業関連事業）

【拠点】本社：愛知県名古屋市

NEW 日石硝子工業株式会社

その他事業（ガラス）の規模拡大

【グループ入り】2025年3月31日

【事業内容】ガラス加工製品の製造・販売（その他事業）

【拠点】本社：富山県高岡市

【プレスリリース】



01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

高品質なメンテナンス付き自動車リースを軸に 車に関連する様々なサービスをワンストップで提供

事業内容

- ・オートリース：法人顧客向けメンテナンス付き自動車リース
- ・自動車メンテナンス受託：リース車両のメンテナンスを他のリース会社様より受託
- ・車両販売：リース満了車・外部仕入れ車両の販売
- ・燃料販売：「燃料給油カード」などの販売
- ・車体修理管理サービス：車体の外装修理サービスの提供

強み

- ・北海道から九州までをカバーする全25拠点体制
- ・全国に広がる提携整備工場のネットワークをフル活用
- ・独自の車両販売ルートの確立（ICHINEN AUTOS（N.Z））



成長戦略

- ・徹底したエリアマーケティングをベースとした台数規模の拡大
- ・リースアップ車の処分ルートが多様化
- ・個人リース市場の開拓

自動車リース関連事業の指標

事業売上高

61,361百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

6,547百万円
(2025年3月期実績)

リース/メンテナンス受託 契約台数

リース：**96,117台**
メンテ：**75,987台**
(2025年3月末時点)

燃料カード販売実績

発券枚数：**247,989枚**
給油数量：**218,191kl**
(2025年3月末時点)

提携整備工場 ネットワーク

全国約8,800社
(2025年3月末時点)

環境対応・省エネ・生産性向上など、顧客のニーズに応える 多彩なケミカル製品を開発・販売

事業内容

- ・プロユースケミカル事業：潤滑剤、防錆剤（自動車整備工場向け）等の販売
- ・テクノケミカル事業：燃料添加剤（火力発電所等向け）等の販売
- ・コンシューマケミカル事業：クリンビューブランド（カーケミカル用品）等の販売
- ・新規事業開発：その他商材の開発、販売



ケミカル事業の指標

事業売上高

11,854百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

848百万円
(2025年3月期実績)

海外販売国

15か国
(2025年3月末時点)

部門別売上シェア

PC事業部：**45.9%** TC事業部：**28.6%**
第三営業部(マリン・海外)：**14.8%**
CC営業部：**9.4%** 新規事業開発部：**1.3%**
(2025年3月期実績)

強み

- ・創業以来、産業用工業製品、家庭用化学製品分野で独自の技術開発力とノウハウを保有
- ・確かな技術と厳しい品質管理でお客様に信頼されるケミカル製品を提供
- ・業界内で高シェアを誇る添加剤事業

成長戦略

- ・新たなニッチ市場におけるNo.1製品の開発を目指す
- ・脱炭素社会を見据えた環境配慮型製品の開発加速
- ・海外展開を加速し、販売地域、販売品目を拡大

安全・安心、利便性の高い「ストレスフリー」な駐車場運営により 高稼働・高収益を実現

事業内容

- ・コインパーキングの運営：
土地を借り上げ、初期投資費用、ランニングコストは全て当社が負担
- ・施設付帯駐車場の管理受託・運営：
病院、商業施設等の駐車場の設備投資から運営管理までを当社が受託

強み

- ・コインパーキングの収益性を高める小回りの利いた販売促進策
- ・病院等に付帯する立体駐車場の建設から管理運営までを一括して受注するPFI事業

成長戦略

- ・既存駐車場の売上拡大、収支改善
- ・新規情報源の開発による駐車場数の拡大
- ・キャッシュレス/フラップレス化等の推進によるサービス品質向上
- ・デッドスペースの有効活用（バイク駐輪用スペースの新設等）



パーキング事業の指標

事業売上高

7,905百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

1,265百万円
(2025年3月期実績)

中期目標

売上高 100億円
営業利益 15億円

地域別契約割合 (件数ベース)

関西 55.9%
関東 35.5%
(2025年3月末時点)

駐車場管理件数

コイン・立駐：**1,658箇所**
来客用駐車場：**207箇所**
管理受託：**67箇所**
(2025年3月末時点)

自動車/産業機械用部品・冷凍空調工具等、多種多様な商材を ラインナップし、自社オリジナル商品も数多く展開

事業内容

- ・イチネンアクセス：自動車部品・産業資材・各種工具などの販売
- ・イチネンMTM：フォークリフト用アームの製造
- ・イチネンTASCО：空調冷凍工具・計測機器等の販売
- ・イチネンネット：ネット販売事業
- ・イチネンロジスティクス：グループ内の物流事業

強み

- ・幅広い商品ラインナップを持ち自社ブランド製品も数多く展開
- ・TASCОブランドの空調工具は国内トップシェア
- ・セグメント内の各社販路を活用したクロスセル等、仕入・販売の両面における高いシナジー

成長戦略

- ・オリジナル製品の開発、販売強化による収益向上
- ・ネット通販事業のさらなる収益拡大
- ・脱炭素社会に向けた取扱い商材の拡充
- ・海外展開の強化
- ・物流機能の集約による効率化



機械工具販売事業の指標

事業売上高

36,085百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

▲141百万円
(2025年3月期実績)

中期目標

セグメント売上高
500億円超

海外拠点

3拠点
(アメリカ、中国、タイ)

製品紹介



**第25回
経済産業大臣賞
受賞**

イチネンTASCО
冷媒回収装置
"クワトロ"TA110VF

確かな技術力で遊技機部品、自動車用内外装部品等の 企画・デザイン・設計・試作・生産までを一気通貫で提供

事業内容

- ・遊技機部品事業：遊技機等のプラスチック製品のデザイン・製造・販売等
- ・合成樹脂事業：リサイクル樹脂・オリジナル再生樹脂の販売
- ・科学計測器事業：ガス濃度計や警報器等の製造、販売
- ・自動車用内外装部品事業：エンブレムや自動車内外装部品の製造・販売



強み

- ・主要大手メーカーとの安定的な取引関係を維持
- ・製品のデザインから金型設計、成形、特殊加工、組立まで一気通貫の生産体制を構築

成長戦略

- ・既存技術を応用した新製品の開発・販売
- ・高付加価値な樹脂材料の拡販
- ・製品の生産効率向上・量産化
- ・海外事業展開の強化

合成樹脂事業の指標

事業売上高

19,026百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

336百万円
(2025年3月期実績)

中期目標

**セグメント売上高
300億円超**

海外拠点

タイ
(グループ会社2社)

新規取組紹介

イチネン製作所では既存事業で培った技術を生かし、ネクスプライズ事業を設立し、新規分野への挑戦を行っております。



totonoi link fit

肥料の製造・販売・輸入事業を軸に、自社農場の展開による 社会価値の創造にも挑戦

事業内容

- ・肥料事業：多種多様な肥料を製造・販売
- ・商社事業：明京商事(株)を通じた海外の化学・肥料製品の輸入・販売
- ・農園事業：ミニトマト・ピーマンの栽培、地域野菜の普及、6次産業化



強み

- ・肥料の原料調達から製造・出荷まで一貫した生産体制
- ・農家様への栽培技術指導等の独自ノウハウ
- ・大規模な次世代ハウスによる農作物の大量生産・販売

成長戦略

- ・農作業省力肥料の開発・販売強化、ラインナップ拡充
- ・気候変動に対応した肥料製品の開発、販売強化
- ・販売ルート多様化に向けた新規顧客開拓
- ・農業ベンチャー企業と連携したDXの推進

農業関連事業の指標

事業売上高

17,578百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

1,168百万円
(2025年3月期実績)

肥料 年間生産量

116,071トン
(2025年3月期実績)

農作物 年間生産量

ミニトマト 362トン
ピーマン 245トン
(2025年3月期実績)

製品紹介

日東エフシーの一般家庭向けの肥料ブランド「自然暮らしより新しく」「水に溶かして速く効く粉末液肥」と「水ですめるカルシウム液肥」が2025年8月に新発売いたしました。



曲げガラスを柱とした唯一無二の技術力を武器に 強化ガラス・合わせガラス等の多彩なガラス製品を展開

事業内容

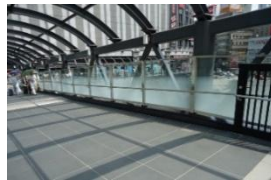
- ・新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)：
曲げガラスの加工を柱とし、ビル建材・内装・ケース・車両用などの多様な板ガラスの加工製品を製造・販売
- ・日石硝子工業(株)：
液晶調光ガラス、装飾合わせガラス、防音合わせガラス、強化ガラス、タペストリーガラスなど、住宅、オフィス、商業施設向けに多様な板ガラスの加工製品を幅広く製造・販売



新幹線はやぶさフロントガラス



東京証券取引所マーケットセンター



ヨドバシカメラマルチメディア梅田様
立体歩道橋

強み

- ・ガラス加工製品の専門メーカーとして
長年積み上げてきた確かな技術力
- ・商業用施設やオフィスビル、美術館など
あらゆる市場の顧客ニーズに対応

成長戦略

- ・都市圏の再開発案件等の早期情報
収集及び受注強化
- ・生産効率の向上を目的とした
機械化・DX化を推進

その他事業の指標

事業売上高

2,153百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

236百万円
(2025年3月期実績)

NEWS !

2025年3月31日にグループ入り！

日石硝子工業株式会社のご紹介

住宅・オフィス・商業施設等向けのガラス製品を幅広く製造・販売し、大手企業へのOEM供給や自社製品の展開も行っています。新光硝子グループとの連携により、技術開発や原材料調達の効率化、商品ラインナップの拡充などの相乗効果が見込まれ、事業の拡大と収益性の向上が期待されます。

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

2026年3月期 第1四半期 事業別業績天気図



… 営業利益が前期比で増加。事業が好調で安定して成長している状態。



… 営業利益が前期比で横ばい～微減。事業に課題があり、成長が停滞している状態。



… 営業利益が前期比で減少。事業が不振で、業績が悪化している状態。

グループ全体

グループ全体の業績は堅調に推移しました。

機械工具販売事業の空調工具及び計測工具の販売が引き続き好調となっており、農業関連事業では肥料の販売単価が上昇し、製品の販売も好調でしたが、合成樹脂事業の遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が大幅に減少いたしました。これらの結果、売上、親会社株主に帰属する四半期純利益では、計画比・前期比ともに上回り、営業利益及び経常利益は計画は上回りましたが、前期比未達となりました。

自動車リース関連



- ・リースは契約台数が順調に推移。
- ・燃料給油カードの販売単価が上昇。
- ・営業活動の増加等に伴い販管費が増加した影響により、利益は前年同期並みで推移。

ケミカル



- ・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品並びに船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
- ・原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加

パーキング



- ・新規駐車場の開発が順調。
- ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

機械工具販売



- ・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移。
- ・建設機械部品の販売は減少。

合成樹脂



- ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売が順調に推移。
- ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が、前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少。
- ・マレイ工業の海外子会社2社の業績が、決算期変更に伴い前年同期には連結されていなかった影響により、販売が増加。

農業関連



- ・肥料製品の販売は順調に推移。
- ・農作物の販売数量は増加したものの、流通市場での単価は下落。
- ・肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加。

2026年3月期 第1四半期連結損益計算書（百万円未満切捨）



単位：百万円		2025年 3月期1Q		2026年 3月期1Q		前期比 増減率	2026年 3月期 1Q 計画	計画比
		金 額	構成比	金 額	構成比			
売上高		39,522	100.0%	41,145	100.0%	104.1%	40,124	102.5%
	自動車リース関連	15,453	38.9%	16,168	39.0%	104.6%	15,192	106.4%
	ケミカル	2,828	7.1%	2,825	6.8%	99.9%	3,007	94.0%
	パーキング	1,929	4.9%	1,988	4.8%	103.0%	2,015	98.7%
	機械工具販売	8,981	22.6%	9,485	22.9%	105.6%	9,554	99.3%
	合成樹脂	4,939	12.4%	4,834	11.7%	97.9%	5,145	94.0%
	農業関連	5,144	12.9%	5,553	13.4%	108.0%	4,958	112.0%
	その他	484	1.2%	556	1.4%	114.8%	494	112.6%
	調整額	▲239	-	▲266	-	-	▲241	-
売上総利益		8,847	22.4%	9,138	22.2%	103.3%	8,904	102.6%
販売管理費		5,502	13.9%	5,888	14.3%	107.0%	6,337	92.9%
営業利益		3,345	8.5%	3,250	7.9%	97.2%	2,567	126.6%
経常利益		3,481	8.8%	3,292	8.0%	94.6%	2,544	129.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,273	5.8%	2,470	6.0%	108.7%	1,622	152.3%

2026年3月期 第1四半期セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前 期 比 増 減 率	2026年 3月期1Q 計画	計 画 比
		金 額	金 額			
営業利益		3,345	3,250	97.2%	2,567	126.6%
	自動車リース関連	1,933	1,926	99.6%	1,280	150.5%
	ケミカル	175	246	140.7%	193	127.6%
	パーキング	307	341	111.2%	316	108.1%
	機械工具販売	14	136	925.1%	68	200.0%
	合成樹脂	536	▲33	-	46	-
	農業関連	299	599	200.5%	628	95.5%
	その他	74	29	39.1%	32	91.3%
	調整額	4	4	-	4	-

(自動車リース関連)

- ・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
- ・燃料給油カードの販売単価が上昇。
- ・営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により、利益は前年同期並みの水準で推移。

(ケミカル)

- ・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品並びに船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
- ・石炭添加剤及び一般消費者向けケミカル製品の販売が減少。
- ・原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加。

(パーキング)

- ・新規駐車場の開発は順調に推移。
- ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)

- ・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移。
- ・建設機械部品の販売は減少。

(合成樹脂)

- ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売が順調に推移。
- ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が、前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少。
- ・マルイ工業の海外子会社2社の業績が、決算期変更に伴い前年同期には連結されていなかった影響により、販売が増加。

(農業関連)

- ・肥料製品の販売は順調に推移。
- ・農作物の販売数量は増加したものの、流通市場での単価は下落。
- ・肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加

2026年3月期 計画（連結）【2025年5月2日公表数値】（百万円未満切捨）

単位：百万円		2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期計画	前期比の主な増減要因
売上高	自動車リース関連	58,673	61,361	60,699	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	11,918	11,854	12,472	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	7,497	7,905	8,304	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善、設備リニューアルによる稼働率向上
	機械工具販売	36,189	36,085	39,466	高単価・高収益商材の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	17,330	19,026	21,804	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	5,673	17,578	18,150	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	2,075	2,153	2,143	
	調整額	▲1,104	▲1,044	▲1,038	
	合 計	138,253	154,920	162,000	
営業利益	自動車リース関連	5,794	6,547	5,467	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	998	848	988	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	1,121	1,265	1,358	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善
	機械工具販売	384	▲141	603	高収益な自社オリジナル商品の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	339	336	511	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	167	1,168	1,228	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	216	236	230	
	調整額	22	19	15	
	合 計	9,045	10,279	10,400	
経常利益		9,460	10,318	10,030	
親会社株主に帰属する当期純利益		12,253	6,657	6,200	
株主資本利益率（ROE）		22.54%	10.65%	9.26%	
総資産経常利益率（ROA）		5.05%	5.06%	4.80%	

2026年3月期 四半期セグメント別利益計画 (百万円未満切捨)



単位：百万円		第1四半期	第2四半期（累計）	第3四半期（累計）	第4四半期（累計）
自動車リース関連	売上高	15,192	30,643	45,770	60,699
	売上総利益	2,983	6,320	8,972	12,415
	営業利益	1,280	2,921	3,836	5,467
ケミカル	売上高	3,007	6,103	9,470	12,472
	売上総利益	1,248	2,549	3,892	5,120
	営業利益	193	480	779	988
パーキング	売上高	2,015	4,098	6,212	8,304
	売上総利益	529	1,109	1,693	2,227
	営業利益	316	683	1,050	1,358
機械工具販売	売上高	9,554	19,505	29,559	39,466
	売上総利益	1,856	3,855	5,753	7,692
	営業利益	68	305	431	603
合成樹脂	売上高	5,145	10,582	16,544	21,804
	売上総利益	987	2,050	3,218	4,318
	営業利益	46	148	377	511
農業関連	売上高	4,958	8,555	12,988	18,150
	売上総利益	1,177	1,590	2,334	3,181
	営業利益	628	591	842	1,228
その他	売上高	494	998	1,613	2,143
	売上総利益	163	331	566	736
	営業利益	32	75	184	230
調整額	売上高	▲241	▲484	▲779	▲1,038
	売上総利益	▲39	▲76	▲114	▲152
	営業利益	4	7	11	15
合 計	売上高	40,124	80,000	121,377	162,000
	売上総利益	8,904	17,728	26,314	35,537
	営業利益	2,567	5,210	7,510	10,400

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

株主還元について

株主還元方針

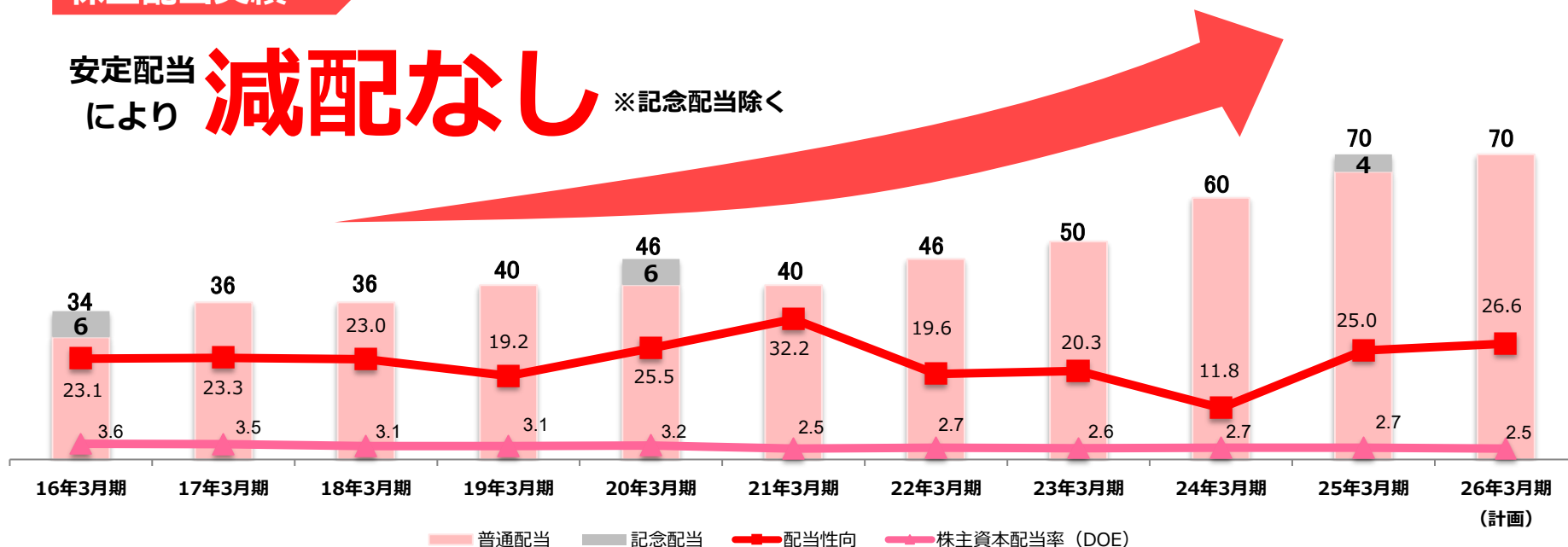
配当性向**20%～30%**程度を目安に、**安定的な配当**の実施を目指す

1株あたりの配当金（予想）

中間期末	期 末	年 間
35円	35円	70円

株主配当実績

安定配当により **減配なし** ※記念配当除く



当社は2023年3月末日時点の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって、株主優待制度を廃止いたしました。

株価について



直近の株価

1,804 円

※8月26日終値ベース

その他指標

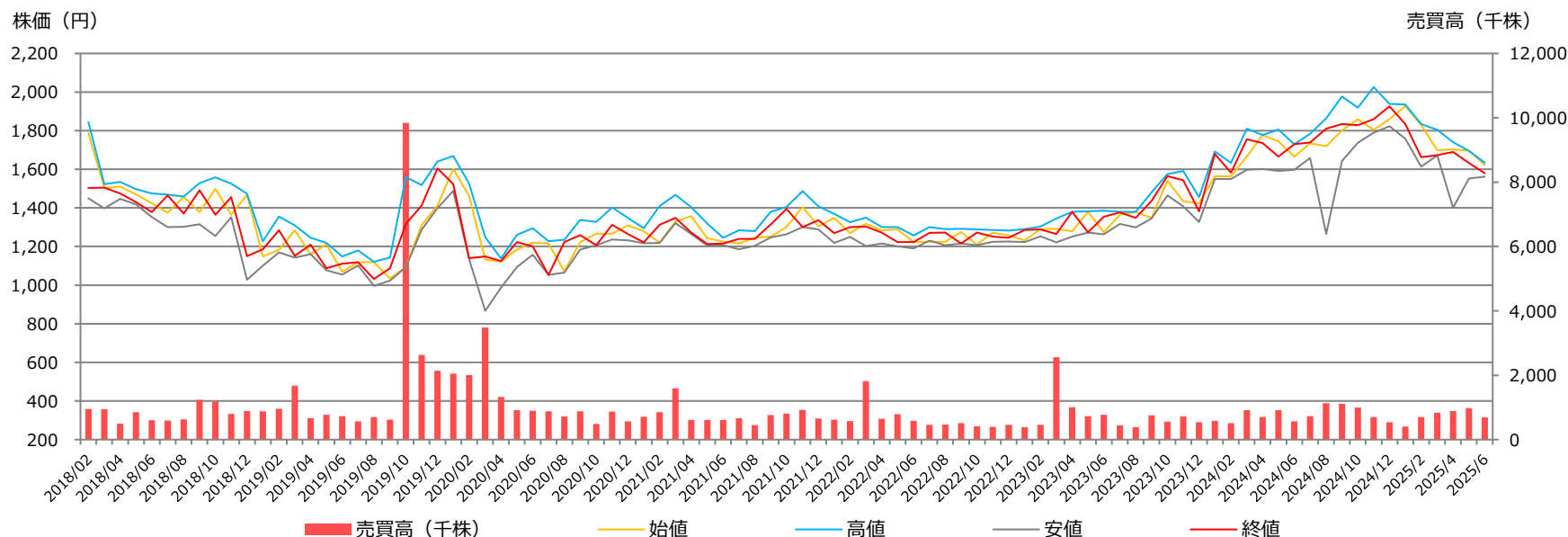
※8月26日終値ベース

時価総額 **428億円**

配当利回り **3.88%**

PBR **0.65倍**

株価の推移



※株価及び売買高の表示は月次ベースです。(株価は月末時点の数値、売買高は月の売買高の合計)

01

1.イチネングループについて

02

2.イチネングループが向かうところ

03

3.イチネングループの事業紹介

04

4.決算報告・今期の計画

05

5.株主還元について

06

6.企業価値向上に向けた取り組み

環境

●各事業の取り組み

- ◆ケミカル事業：脱炭素社会に貢献するバイオマス添加剤
 - ・ バイオマス発電向けの燃料添加剤「バイオトニックシリーズ」
 - ・ 汎用樹脂向けバイオマス添加剤「ON E バイオ」
 - ・ 植物由来の原料を使用した「Green JIP」シリーズ など
- ◆パーキング事業：交通渋滞緩和による環境負荷の低減
- ◆機械工具販売事業：自社ブランドの冷媒回収装置がオゾン層保護・地球温暖化防止大賞受賞！
- ◆合成樹脂事業：リサイクルペレットの製造/販売
- ◆農業関連事業：被覆尿素の殻が残ることが無く、環境にやさしい省力栽培を可能にする肥料
 - ・ エコフレンズN20
 - ・ テンボロン（政令指定土壌改良資材）など

イチネングループでは、事業活動や提供する商品・サービスが地球全体の環境にできる限り負荷を与えないよう最大限努めております。



社会（人的資本）

●農業を通じた地域貢献

日本の誇るべき農業を通じて雇用を促進させ、地域コミュニティとの連携も行い、地域活性化に貢献できるよう努力し、安全、安心、そして美味しい野菜をお届けします。

さらに、農場では海外からの技能実習生や特定技能生も受け入れており、途上国への技術の移転や普及に農業を通じて貢献できるよう取り組んでまいります。



ガバナンス

●取締役会の監査機能強化および多様性の強化

女性取締役比率

30.0%

(2025年6月17日時点)

男性取締役

7名

女性取締役

3名



社外取締役比率

50.0%

(2025年6月17日時点)

社内取締役

5名

社外取締役

5名



●コンプライアンス・リスク管理体制

当社グループは、法令遵守とリスク管理を持続的成長の基盤と位置付けています。予防的視点での発生防止と、戦略的視点での適正管理を両立し、子会社を含む全社で情報共有と迅速な対応を実施しています。



◆基本方針

- ◆ リスク＝予期せぬ損失の可能性と定義
- ◆ 発生防止・許容範囲での制御を徹底
- ◆ リスク管理を経営の重要課題として位置付け

◆リスク対応の区分

- ◆ 極小化すべきリスク（事務・システム等）は防止策を強化
- ◆ 引き受けるリスク（投融資等）は自己資本等を踏まえ適正水準に制御

◆管理体制

- ◆ 内部管理体制を整備し、全社的に実行
- ◆ 子会社のリスクは担当役員、所管部門、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会が連携し指導・助言

ウェブサイト・資料のご案内



IRサイト : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/>

イチネンホールディングス IR

検索

IRサイト



IRライブラリー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library/>



IRカレンダー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/calendar/>

今後の説明会スケジュール及び過去の説明会の動画（※）についてもこちらよりご確認いただけます。

※説明会の動画については一部のみの公開となっております。



株式会社 イチネン ホールディングス

株式会社 イチネンホールディングス
2024年3月期 決算説明会



統合報告書・TCFDレポート発刊のご案内



統合報告書

東証プライム上場企業として、非財務情報の開示を一層強化するため、2021年よりグループ横断の社内プロジェクトを組成し、統合報告書の制作を進めてまいりました。

イチネングループの企業価値創造に向けた取り組みを掲載しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。

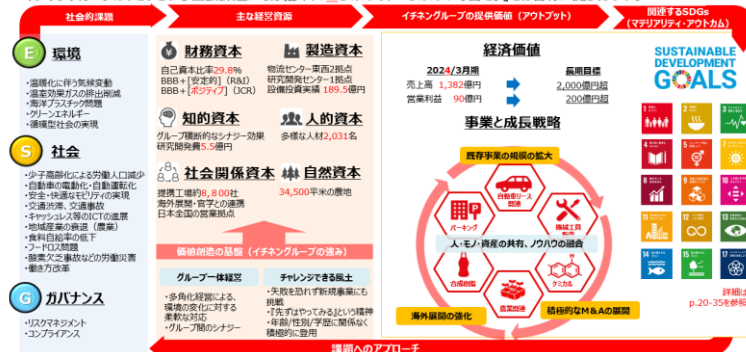
URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library6/>



過去のTCFDレポートも含め、QRコードよりアクセスできます⇒

価値創造モデル

イチネングループは、さまざまな社会課題に取り組み、「いちねんで、いちばんの毎日。」をお客様に提供します。



TCFDレポート

2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにより、東証プライム上場企業には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づいた気候変動問題に対する情報開示が求められています。

現状において、当社グループが認識している気候変動問題に係るリスク、機会、並びにそれらへの対応策等について、『イチネングループTCFDレポート』として取りまとめたので、是非下記URLよりご覧ください。

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/environment/tcfd/>

過去のTCFDレポートも含め、QRコードよりアクセスできます⇒



イチネングループ TCFDレポート 2025

ご清聴ありがとうございました。



ICHINEN HOLDINGS

【9619】

このプレゼンテーション資料には、現時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。実際の業績は、今後のさまざまな要因によって、これらの計画・見通しとは異なる可能性があります。

弊社のIRニュースはこちらよりご覧いただけます。
<https://www.ichinenhd.co.jp/ir/news/>

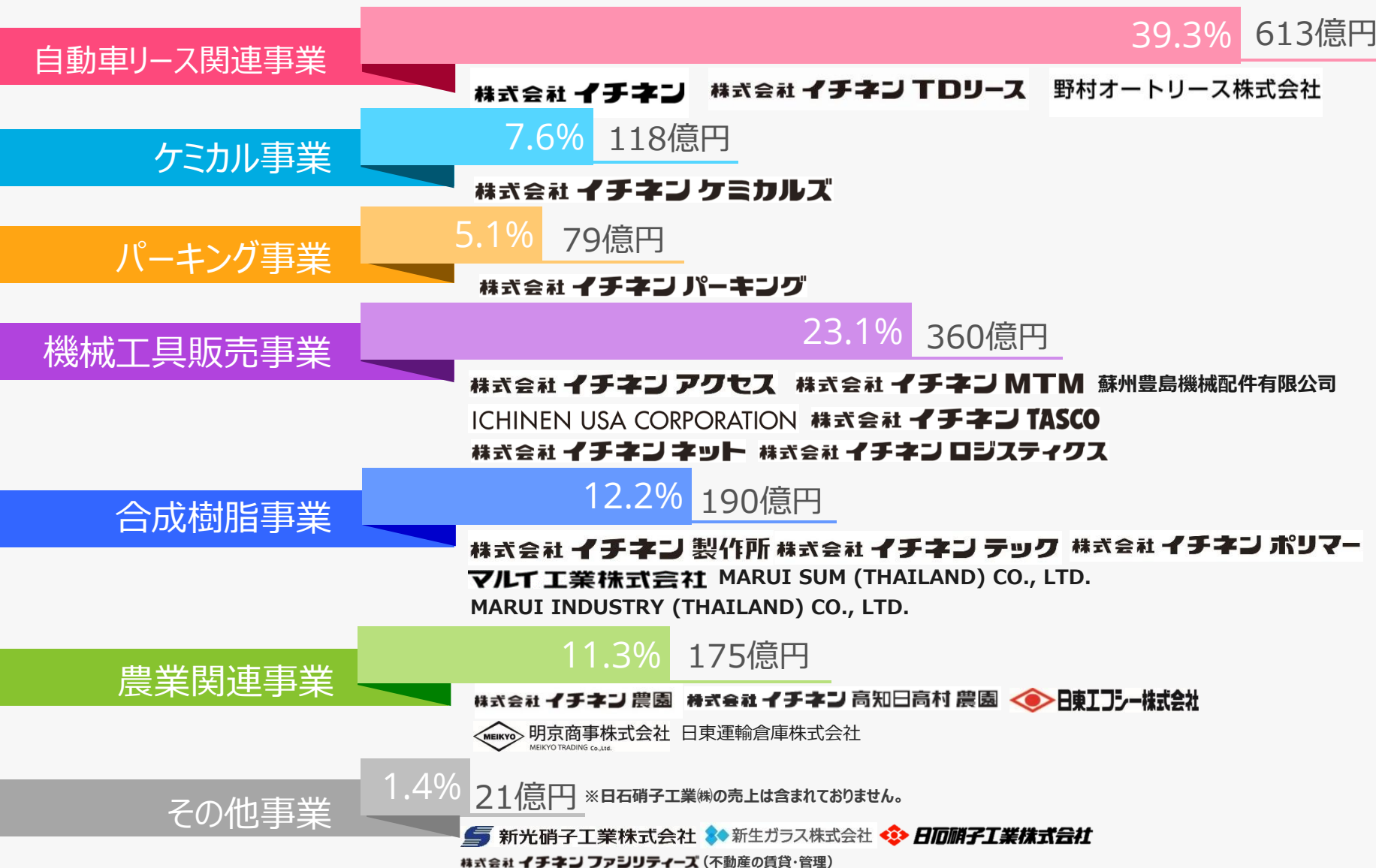


参考資料

グループ会社と事業内容



※連結売上構成比率（2025年3月期）



【関連会社（非連結）】 ICHINEN AUTOS (N.Z.) LIMITED（中古車販売）、株式会社イチネンオートス・ジャパン（中古車販売）、
ICHINEN CHEMICALS (THAILAND) Co., Ltd.（ケミカル）、TASCO (THAILAND) CO., LTD.（機械工具販売）

イチネングループの沿革

1930年～ 石炭から石油へ転換

1930年

黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始



1963年

黒田商事(株)設立、
EMGマーケティング(同)と販売代理店契約締結



1969年～ 自動車分野を中心に成長

1969年

商号を(株)イチネンに変更、
自動車リース業を開始



1980年

自動車メンテナンス受託事業
を開始



2000年

野村オートリース(株)、アルファオートリース(株)
をグループ会社化



1994年

大阪証券取引所市場第二部
(旧：新二部) 上場



2002年

パーキング事業を開始



2004年

(株)コーザイをグループ会社化、
自動車・産業用ケミカル事業に参入



2005年

東京証券取引所市場第一部、
大阪証券取引所市場第一部上場



2006年～ 自動車の変革を見据え新たな事業へ参入

2006年

タイホー工業(株)をグループ会社化、
(株)コーザイと合併し(株)タイホーコーザイ
(現：(株)イチネンケミカルズ)に商号変更



2008年

持株会社体制へ移行、商号を(株)イチネンホールディングスに変更
(株)イチネンパーキング営業開始 (パーキング事業部を新設分割)

イチネングループの沿革

2009年

黒田雅史が代表取締役社長に就任



2013年

タスコジャパン(株) (現：(株)イチネンTASCO)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化



2015年

東電リース(株)をグループ会社化、(株)イチネンTDリースに商号変更

2016年

・(株)イチネン農園を設立し、農業に参入
・野村オートリース(株)とアルファオートリース(株)が、野村オートリース(株)を存続会社として合併



2019年

・(株)イチネンとイチネンBPプラネット(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併
・(株)イチネン前田と(株)イチネンミットモ、(株)ゴンドー、(株)イチネンSHOKO、(株)トヨシマが、(株)トヨシマを存続会社として合併し、(株)イチネンMTMに商号変更
・(株)イチネン農園の事業の一部を会社分割し、(株)イチネン高知日高村農園を設立
・(株)アクセス (現：(株)イチネンアクセス) をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化

2022年

・(株)オートリをグループ会社化し、パーキング事業を強化
・(株)イチネンMTMの事業の一部を(株)アクセスへ吸収分割により継承し、(株)アクセスは(株)イチネンアクセスへ商号変更
・(株)イチネンジコーと(株)浅間製作所は、(株)浅間製作所を存続会社として合併し、(株)イチネン製作所へ商号変更
・東京証券取引所市場再編に伴い、プライム市場に移行

2012年

前田機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。(株)ジコー(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業に参入



2014年

(株)ミットモ製作所(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化



2017年

・グループの物流業務効率化を目的とし、株式会社イチネンロジスティクスを設立。
・(株)イチネンケミカルズ 研究開発センターを移転(神奈川県藤沢市)



2018年

昌弘機工(株) (現：(株)イチネンアクセス)及び(株)トヨシマ(現：(株)イチネンMTM)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化

2020年

(株)浅間製作所 (現：(株)イチネン製作所) をグループ会社化し、合成樹脂事業を強化



2021年

新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業に参入



2023年

・(株)イチネンパーキングと(株)オートリは、(株)オートリを存続会社として合併し、(株)イチネンパーキングへ商号変更
・マルイ工業(株)と日東エフシー(株)をグループ会社化し、合成樹脂事業ならびに農業事業を強化



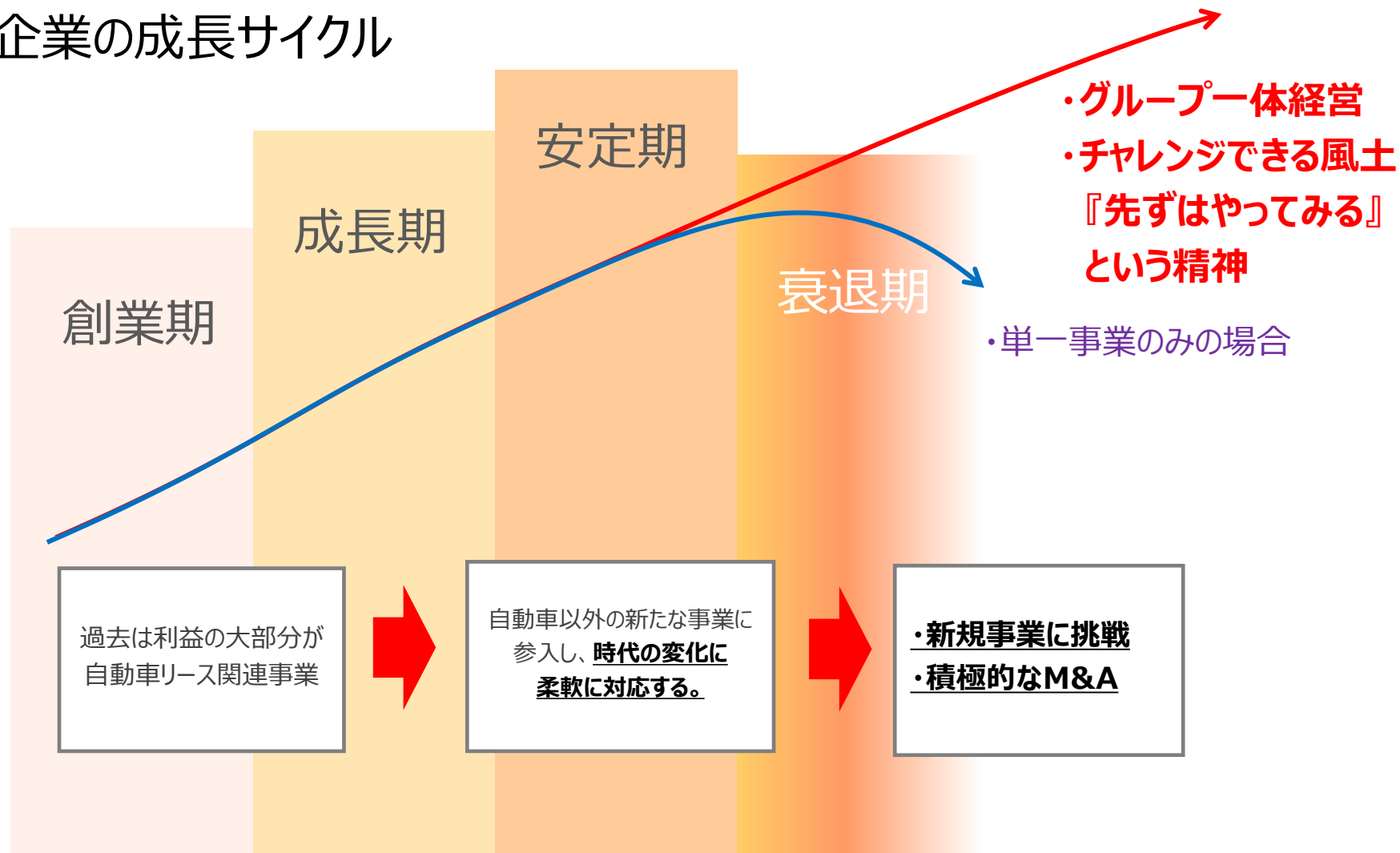
2025年

日石硝子工業(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業を強化

イチネングループの強み

企業の成長サイクル

イチネングループのビジネスモデル



次の10年・・・創業100周年、そしてその先へ向けて、
チャレンジ精神を発揮し続けます。

新たな価値を創造し持続的に成長

グループ一体経営

多角化経営

6つのセグメントから形成

コロナ禍や外部要因等の影響が大きい中でも22期連続連結営業増益達成。



チャレンジできる風土

先ずはやってみるという精神

・複数のグループ横断プロジェクト

【活動内容】

- ・海外事業の拡大
- ・脱炭素に繋がる新商品、新サービス開発検討

・従業員からの声や意見の吸い上げ

【活動内容】

- ・グループ社内制度策定
 - ①グループ内転職
 - ②ダイバーシティ推進

持続的な成長を実現

・経営基盤の安定

事業の柱が複数ある事により、時代の変化に柔軟に対応できる。

・新規事業

コア事業の収益を資源に新規事業へ積極的に投資、参入。(M&A等含む)

・シナジー効果

各セグメントとのシナジー効果により、事業領域を拡大。

・経営資源の有効活用

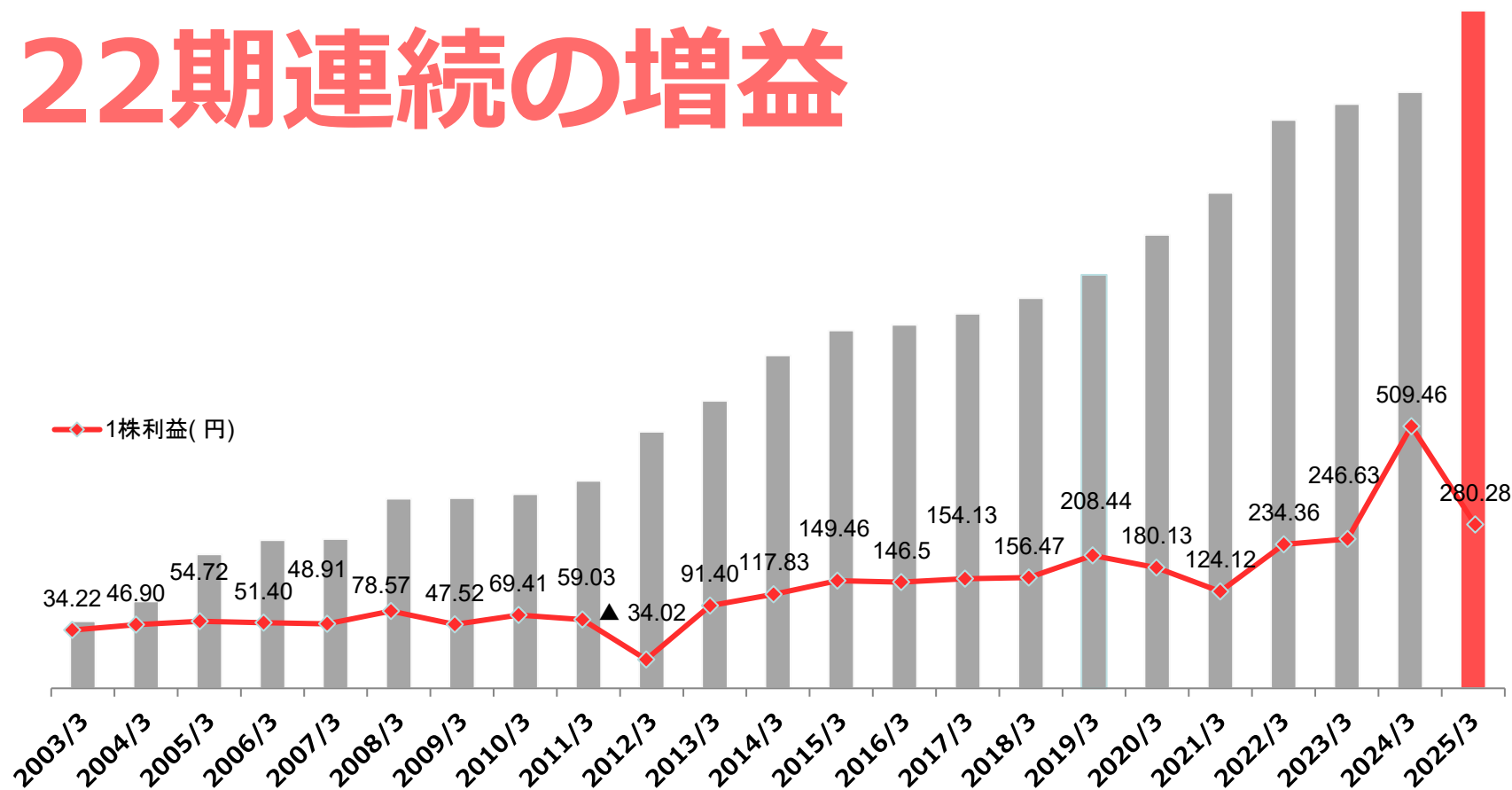
事業拠点の共有化等。

102億円

前年同期比13.6%増

連結営業利益

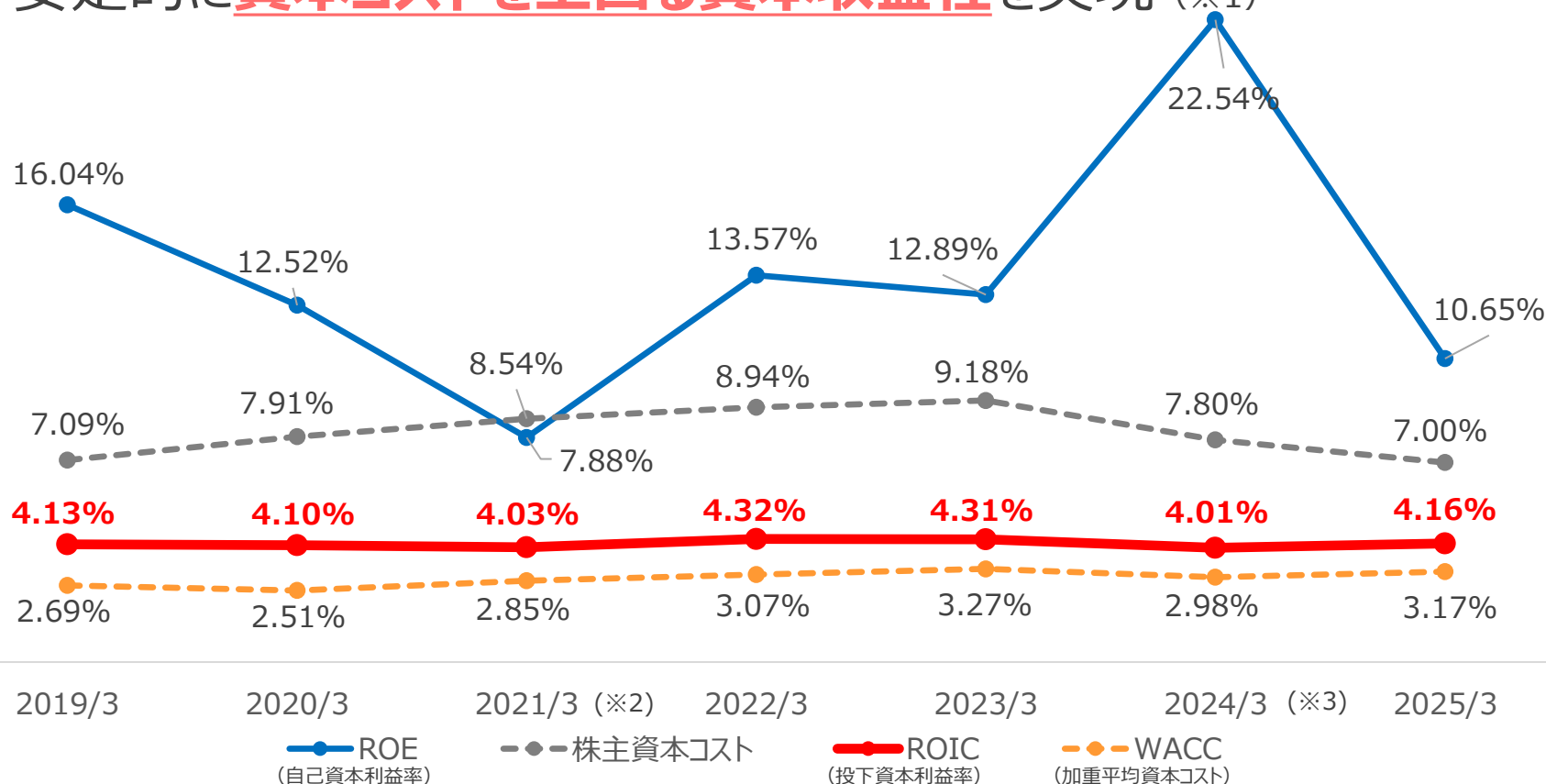
22期連続の増益



※2012年3月期は、自社保有駐車場の土地・建物の減損処理に伴い、当期純損失を計上。

資本コスト、資本収益性の推移

ROEが株主資本コストを、ROICがWACCを上回っており
安定的に資本コストを上回る資本収益性を実現 (※1)



(※1) WACCの負債コストの算定には、資本市場による再調達金利の算定方法を採用しております。また、2024年3月期より、リスクフリーレートについては10年国債利回りを採用しております。(2023年3月期以前は30年国債利回りを採用)

(※2) 2021年3月期は、自動車リース関連事業の基幹システム開発中止等に伴う固定資産除売却損を計上したことにより、一時的にROEが低下しました。

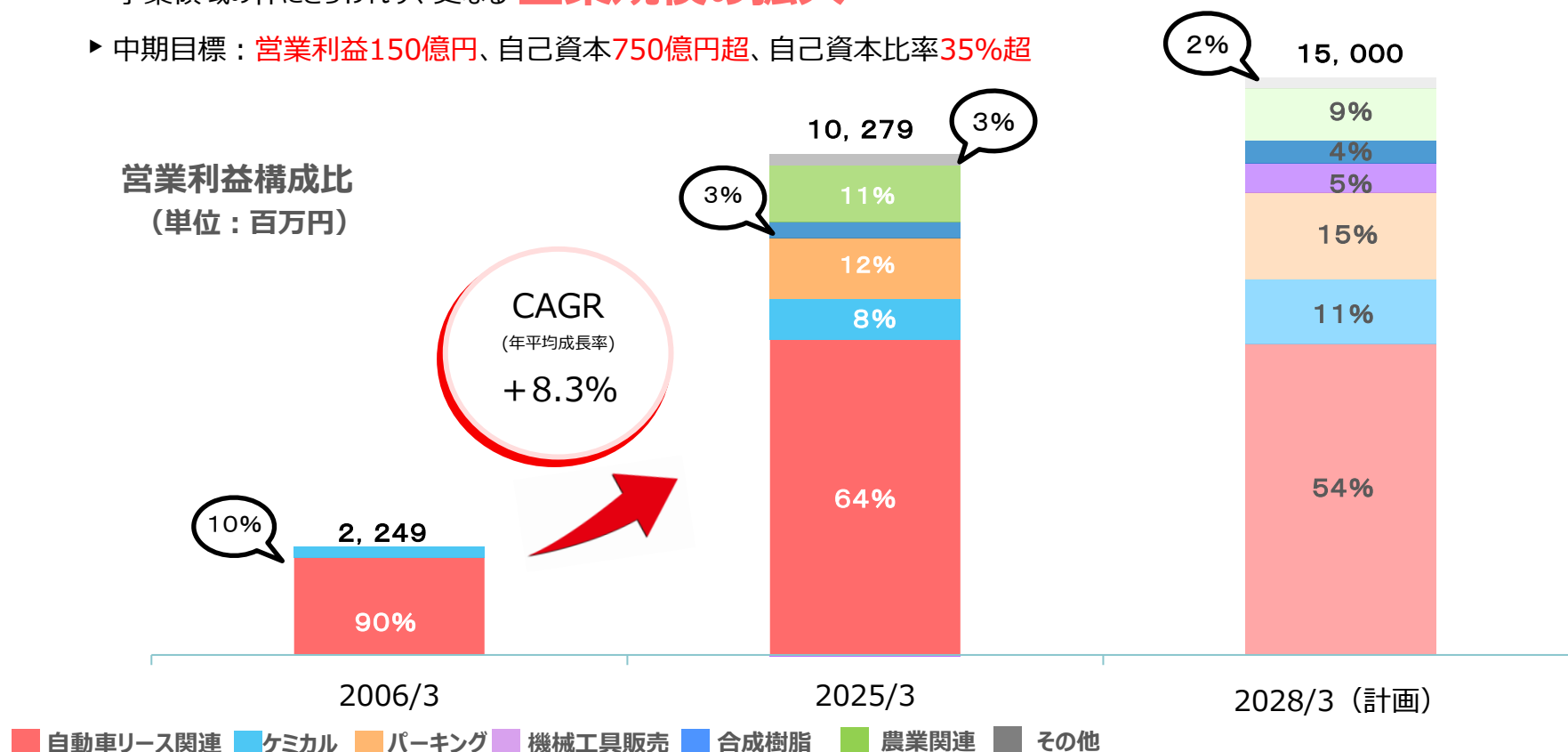
(※3) 2024年3月期は、M&Aに伴う「負ののれん発生益」の計上により大幅にROEが上昇しておりますが、「負ののれん発生益」の影響を除外したROEは10.85%となります。

イチネングループ経営方針

グループ一体経営の推進

- ▶ 自動車分野以外で安定的に連結営業利益の10%以上を稼ぐ **事業の柱の育成**
- ▶ 事業領域の枠にとらわれず、更なる **企業規模の拡大**
- ▶ 中期目標：営業利益150億円、自己資本750億円超、自己資本比率35%超

営業利益構成比
(単位：百万円)



※2006年3月期については、リース、メンテナンス受託、燃料販売、その他の合計値を「自動車リース関連」としています。

※2025年3月期の構成比には機械工具セグメントの数値-1%が含まれています。

成長戦略

長期経営数値目標

売上高 2,000億円超

営業利益 200億円超

積極的なM&Aの展開

- ・M&Aによる新規分野への参入、既存事業の強化を図る。
- ・更なる多角化経営の推進により、リスク分散と安定成長を図る。

海外展開の強化

- ・海外売上高比率20%を目指す。
- ・グループ横断のプロジェクトにおいて、抜本的な海外戦略の見直しを実施。
- ・海外拠点の設置も含め、ASEAN諸国等の有望市場の開拓を推進する。

既存事業の規模の拡大

- ・地方都市への拠点展開、新規情報源の開拓等により数量の拡大を図る。
- ・EV化、脱炭素化への取り組みにより、
新サービス・新商品の開発を進め、事業領域の拡大を図る。

自動車リース関連事業
・リース・メンテナンス契約台数
2006年3月期 114,602台
2025年3月期 172,104台

200億円

102億円

2025年3月期
営業利益

長期営業利益目標

■ 積極的なM&Aを実施するために2008年10月より**ホールディングス体制に移行**

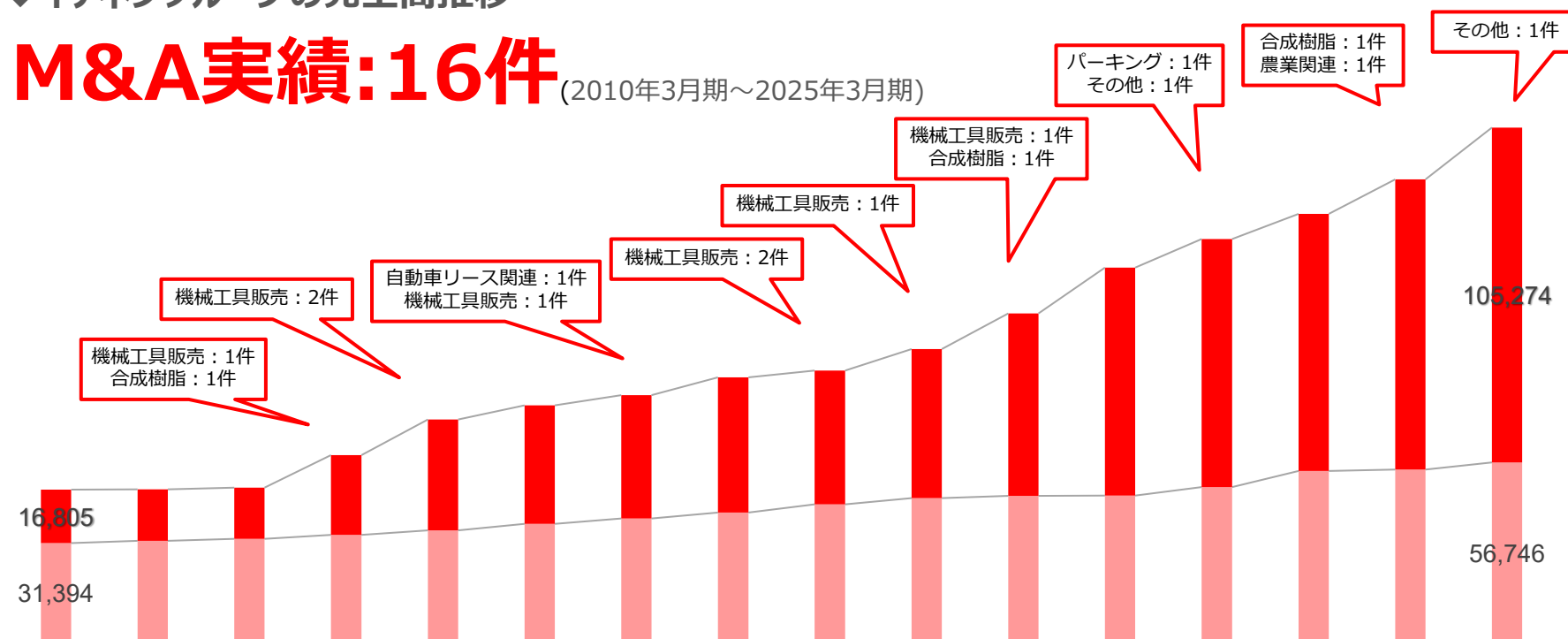
- M&Aの狙い：更なる**事業の多角化・企業規模の拡大**を推進
- M&Aの基準：**グループ入り後ただちに業績に寄与**すること

◆ イチネングループの売上高推移

M&A実績: 16件

(2010年3月期～2025年3月期)

※日石硝子工業(株)の売上は含まれておりません。



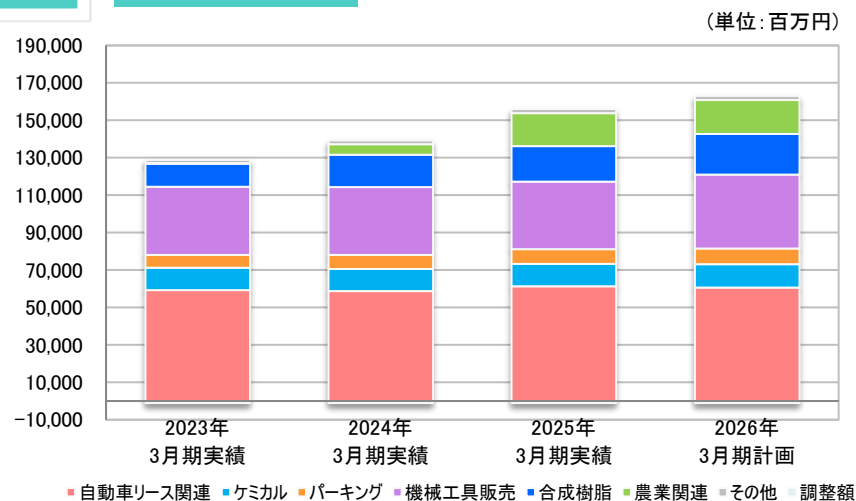
10年3月期 11年3月期 12年3月期 13年3月期 14年3月期 15年3月期 16年3月期 17年3月期 18年3月期 19年3月期 20年3月期 21年3月期 22年3月期 23年3月期 24年3月期 25年3月期

■ 既存会社の売上高 ■ M&Aによりグループ入りした会社の売上高 (単位: 百万円)

セグメント別売上高／同シェアの推移 (百万円未満切捨)

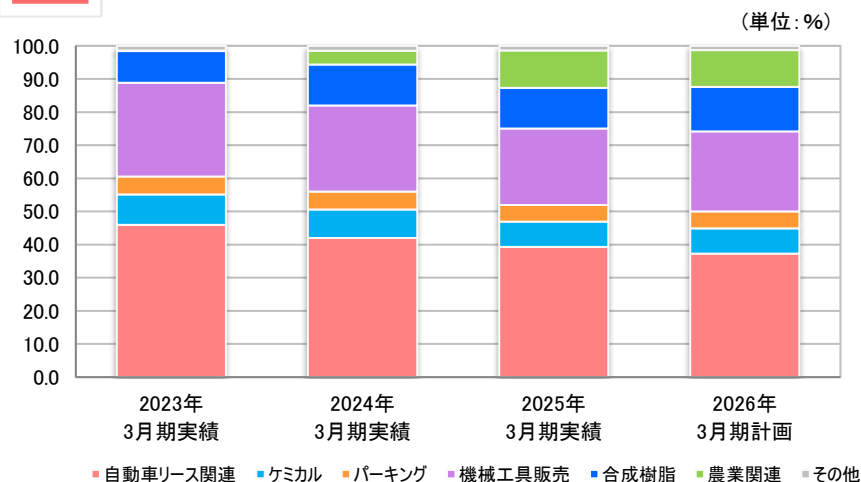
01

セグメント別売上高



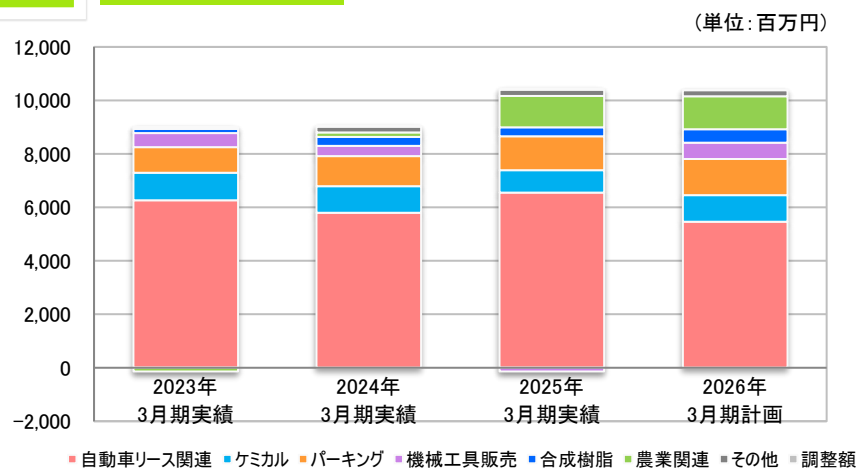
02

セグメント別売上高シェア



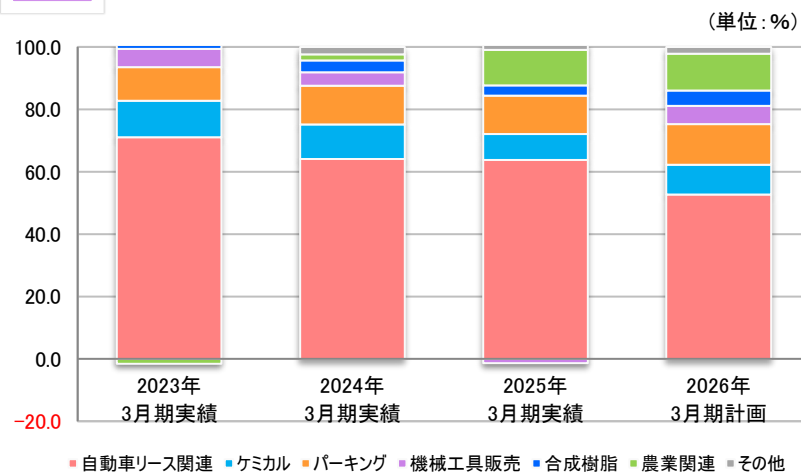
03

セグメント別営業利益



04

セグメント別営業利益シェア



自動車リース関連事業

オートリース

自動車メンテナンス受託

車両販売

燃料販売

車体修理管理サービス

オートリース

- ・主に法人顧客に対して、メンテナンス付き自動車リースを提供
- ・車検、法定点検、定期点検、消耗品の交換（タイヤ、バッテリー等）税金保険料等を一つのパッケージにしてお客様に提供

自動車メンテナンス受託

- ・他のオートリース会社等に対して、メンテナンス付き自動車リースのメンテナンス部分を提供

車両販売

- ・リース満了車・外部仕入れ車両の販売を行う
- ・海外を含めた売却ルートが多様化を図り、収益性を向上させる

燃料販売

- ・主に法人顧客に対して、「燃料給油カード」を販売
- ・重油等の販売も行う

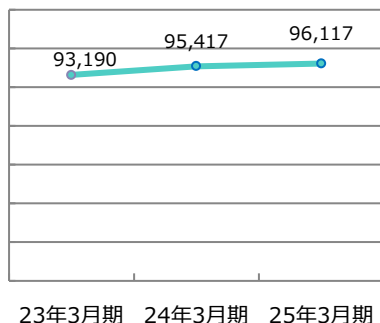
車体修理管理サービス

- ・法人顧客に対して、車体の外装修理サービスを提供

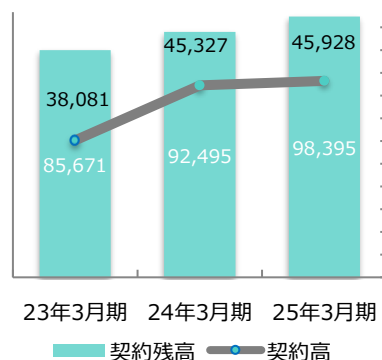
自動車リース関連事業（オートリース）

01 オートリース契約の現状

■ 契約台数（単位：台）

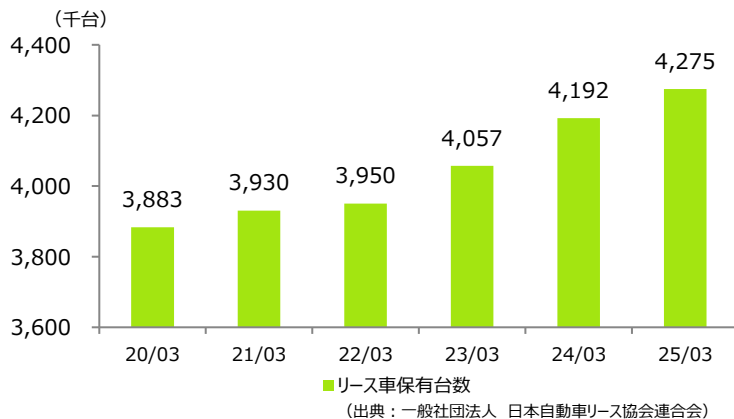


■ 契約残高・契約高（単位：百万円）



02 市場環境について

- 国内のリース車保有台数は堅調に増加
- 中小口規模企業はリース化率が低く、開拓余地あり

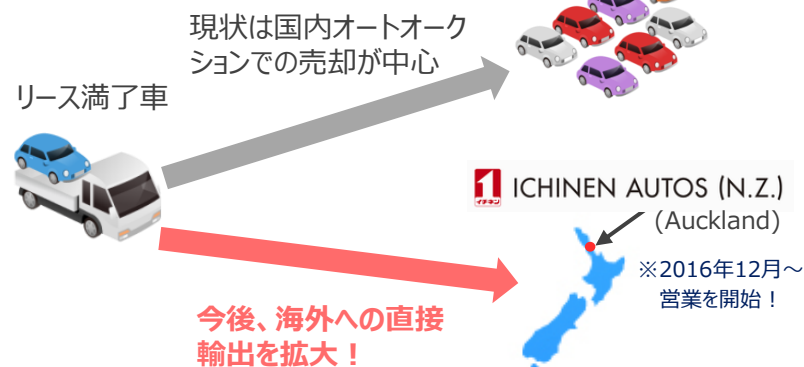


03 オートリース事業の戦略

- 積極的な拠点展開により台数規模を拡大
⇒ 競合の少ないエリアを開拓し、収益性を高める



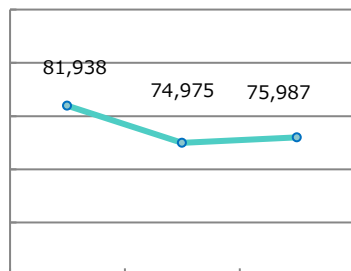
■ リース満了車の処分利益拡大



自動車リース関連事業（自動車メンテナンス受託）

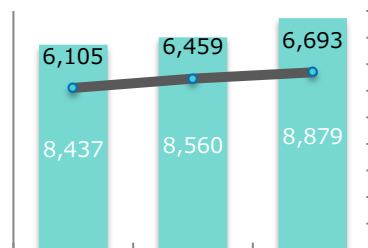
01 メンテナンス受託契約の現状

■ 契約台数（単位：台）



23年3月期 24年3月期 25年3月期

■ 契約残高・契約高（単位：百万円）



23年3月期 24年3月期 25年3月期

契約残高 契約高

03 今後の課題と対策

■ 次世代自動車(HV、EV)の整備ネットワーク構築

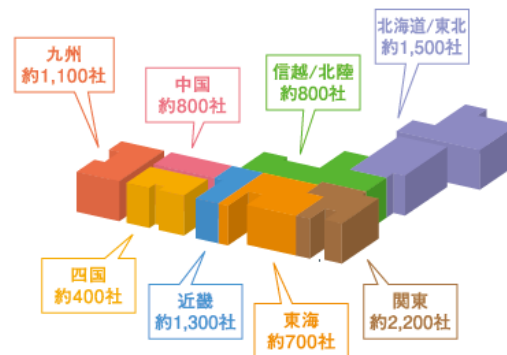
⇒ 提携工場の知識や技術力の向上により
整備環境を整え、メーカー系整備工場と併せて
メンテナンス体制を整えております！



02 メンテナンス受託事業の強み

■ 高品質なメンテナンスサービス

- ・全国約8,800社の提携整備工場ネットワーク
- ・徹底した点検フォローによる、業界屈指の高点検率



サービスネットワーク 全国約8,800社

■ 様々な付随サービスの提供

- ・「フォークリフトメンテナンス」等の独自サービス
- ・顧客であるオートリース会社への営業支援 etc.

- ・安全性向上
- ・法令順守
- ・管理業務省力化

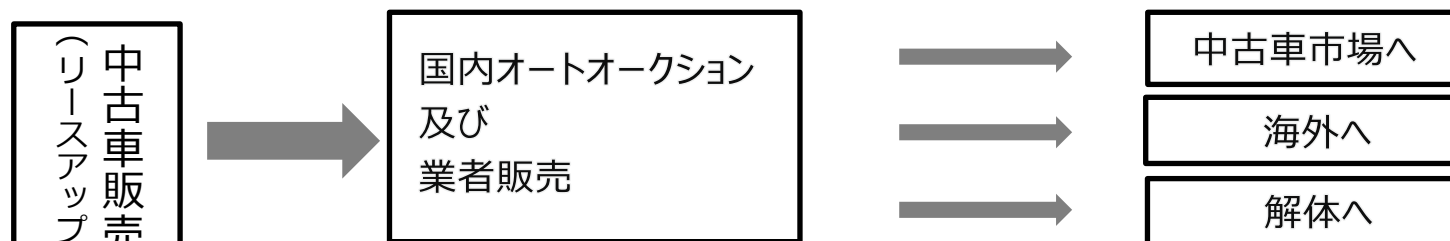


自動車リース関連事業（車両販売）

01

車両販売事業の戦略

■従来のスキーム



■これからの中古車販売方法



☞従来のオークションに比重を置いた処分方法から、業販を含めた処分ルートが多様化を図り、
ICHINEN AUTOSを含む海外への輸出も積極的に進め、リース・メンテナンスに次ぐ**第三の事業の柱**として育てる

02

トピックス

- ・ ICHINEN AUTOS(N.Z.)が EAGLE AUTO SERVICES 社を子会社化

⇒ ICHINEN AUTOSは、ニュージーランドのオークランド市において輸入車両検査業務（コンプライアンスセンター業務）を行っている EAGLE AUTO SERVICES 社を子会社化したことにより、車両の商品化までのリードタイム短縮化を実現し、一層の販売力増強に繋げてまいります。

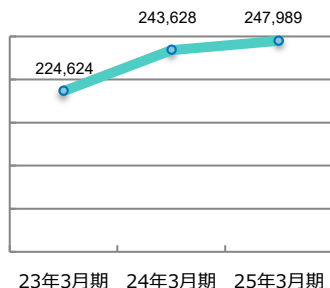


自動車リース関連事業（燃料販売、車体修理管理サービス）

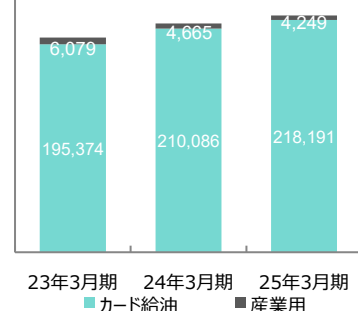
01

燃料販売の現状

■ 発券枚数（単位：枚）



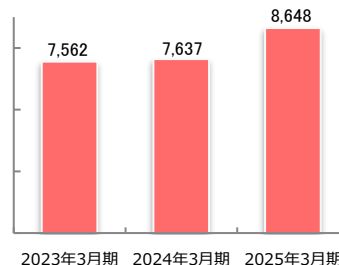
■ 販売数量（単位：KL）



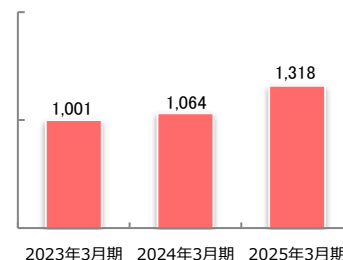
02

車体修理管理サービスの現状

■ 売上台数（単位：台）



■ 売上高（単位：百万円）



03

燃料販売の特徴、今後の課題

■ 特徴

- ☐ 全国一律の給油価格
- ☐ 一括請求書の作成
- ☐ 給油実績データの提供



■ 今後の課題

- ☐ エコカーの普及による給油量の減少

⇒新規顧客を開拓し、販売数量を拡大

- ☐ 脱炭素社会を見据えた新たな事業モデルの構築

04

車体修理管理サービスの特徴、今後の展開

■ 特徴

- ☐ アジャスター(損害査定士)による钣金見積金額の適正化



自動車リース関連事業（セグメントSWOT分析）



Strengths（強み）

- 過去からの整備事業で培った高品質なメンテナンスサービス(メンテ付リース、メンテ受託)
- 地方都市への拠点展開による地域密着営業



Weaknesses（弱み）

- 銀行系、商社系のリース会社と比較して規模の面で劣る

Opportunities（機会）

- 国内のリース台数は増加傾向
- 中小口規模の法人はリース化率が低く開拓余地あり



Threats（脅威）

- 車の動力源が変わることによるメンテナンス収益の減少
- 脱炭素社会におけるクリーンエネルギーへの転換（燃料販売）

ケミカル事業

PC

プロユースケミカル事業部

- 自動車整備工場などで使用する補修用ケミカルや製造業などで使用する潤滑剤、防錆剤やクリーナー等多種多様な製品を製造販売



・プロユースケミカル事業部の取扱製品群

TC

テクノケミカル事業部

- メインの商品は「**燃料添加剤**」
電力会社の火力発電所等で使用され、燃焼効率向上、ボイラー炉内の汚れ防止等に効果を発揮



・大型火力発電ボイラーの外観 ・クリンカーの堆積した様子

CC

コンシューマケミカル営業部

- 弊社ブランドの「クリンビュー」「ノータッチ」「イオンコート」など車の維持に不可欠なカーケミカル用品を製造販売



・コンシューマケミカル営業部の取扱製品群

新規

新規事業開発部

- ゴム・樹脂・エラストマー・塗料・繊維加工素材への機能技術レサ입・原料販売



・新規事業開発部の取扱製品群

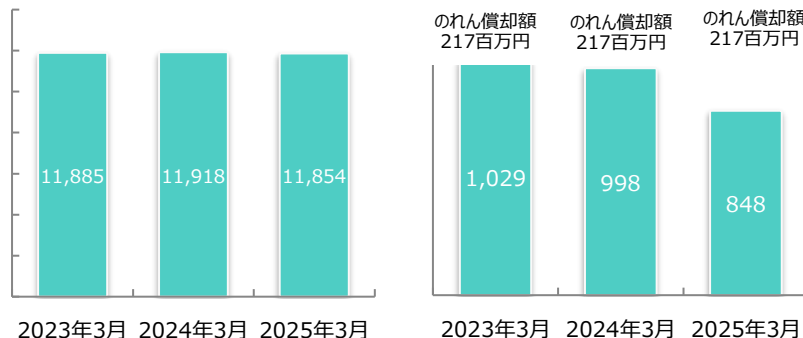
ケミカル事業

01

売上/営業利益の推移

■ 売上高 (単位: 百万円)

■ 営業利益 (単位: 百万円)



03

今後の課題、重点取り組み項目

◆ 新たなニッチマーケットへの参入を目指し、次なる事業の柱を構築する

⇒ 特殊潤滑剤、離型剤、文具関連等の事業拡大

◆ 脱炭素社会を見据えた環境配慮型製品の開発を加速する ⇒ 『Green JIP』ブランド等

◆ 海外展開を加速し、販売地域、販売品目を拡大



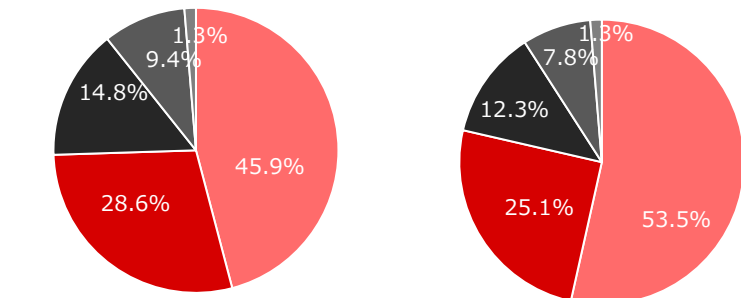
ニッチ市場におけるシェアNo.1製品の開発を目指す。

02

部門別売上/粗利益シェア

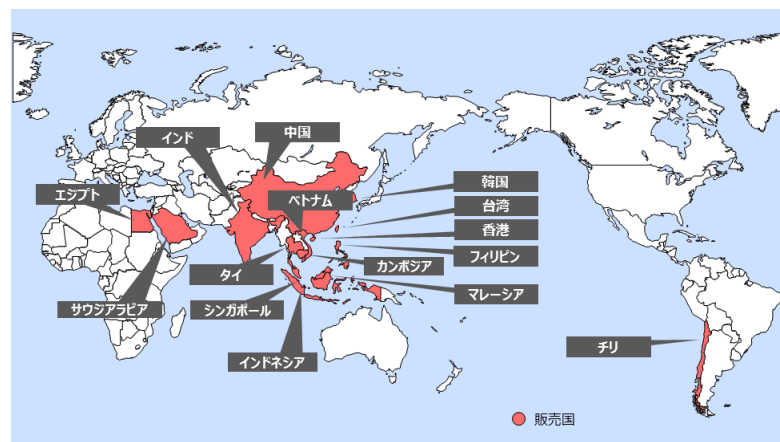
■ 売上高シェア (2025年3月期)

■ 粗利益シェア (2025年3月期)



■ PC事業部 ■ TC事業部 ■ PC事業部 ■ TC事業部
■ 第三営業部 (マリン・海外) ■ CC営業部 ■ 第三営業部 (マリン・海外) ■ CC営業部
■ 新規事業開発部 ■ 新規事業開発部

■ 海外販売国の状況



ケミカル事業（セグメントSWOT分析）

Strengths（強み）

- 主力製品である燃料添加剤は電力・鉄鋼・製紙業界等で広く採用され、国内で高シェアを維持
- 工業・産業用から一般消費者向けケミカルまで幅広い製品群



Weaknesses（弱み）

- 多種多様な製品の開発に対応できる反面、独自技術は多くない

Opportunities（機会）

- 脱炭素社会への移行に伴うバイオマス添加剤等の商機拡大
- 電力自由化に伴い、新規参入事業者の開拓余地拡大



Threats（脅威）

- クリーンエネルギーへの転換に伴う既存の主力商材（燃料添加剤等）の需要減少
- 一般消費者向けケミカルにおける価格競争の激化

パーキング事業

01

パーキング事業の概要

■コインパーキング

- ・土地オーナー様から土地を借り上げ、当社がコインパーキングを運営。
- ・初期投資費用、ランニングコストは全て当社が負担。



■施設付帯駐車場の管理受託

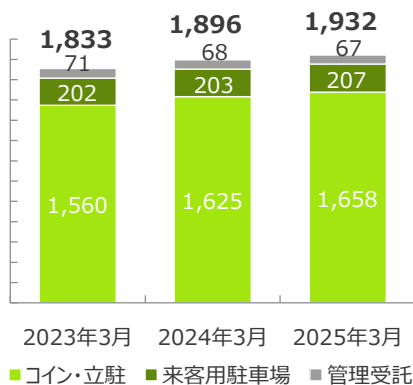
- ・病院、商業施設等の駐車場の設備投資から運営管理までを当社が受託。



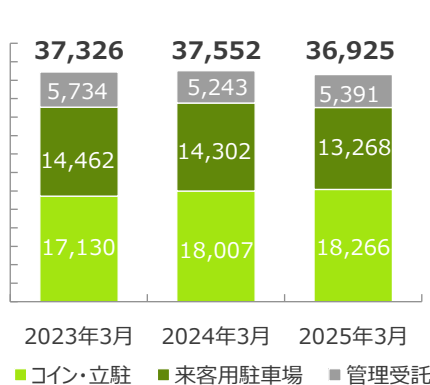
02

箇所数/管理台数の推移

■ 駐車場箇所数 (単位：箇所)



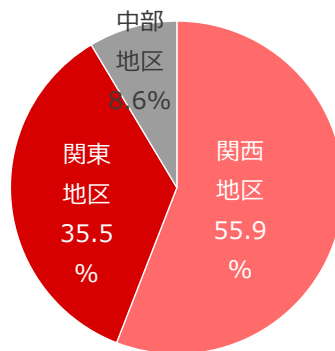
■ 管理台数 (単位：台)



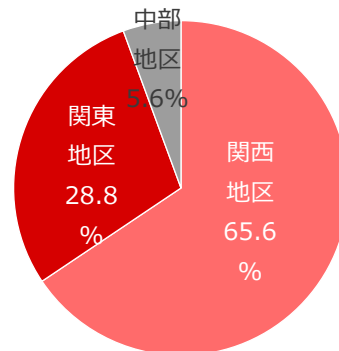
03

地区別契約件数/台数比率

■ 地区別契約件数比率



■ 地区別契約台数比率



※東北・九州地区でも一部運営しております。

04

施設付帯駐車場の導入事例



東京科学大学様の駐車場

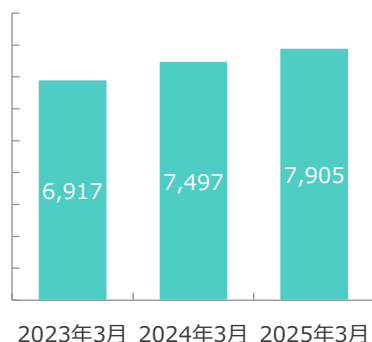
駐 車 場 名	駐車台数
東京科学大学	516台
ジャンボスクエア香芝店（屋上・地下駐車場）	425台
武田総合病院	399台
箕面市立病院	389台
大阪府立急性期・総合医療センター	360台

パーキング事業

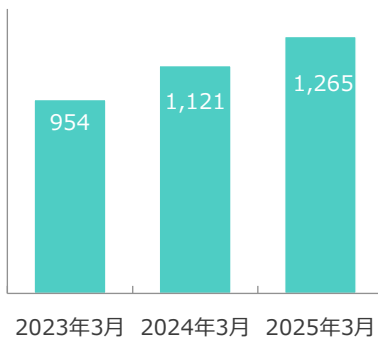


01 売上/営業利益の推移

■ 売上高 (単位：百万円)



■ 営業利益 (単位：百万円)



03 今後の課題、重点取り組み項目

■ 規模の拡大（新規開拓）

- ・宅建協会、税理士組合等との連携による案件情報収集
- ・インターネット広告の強化

■ 既存駐車場の売上拡大、収支改善

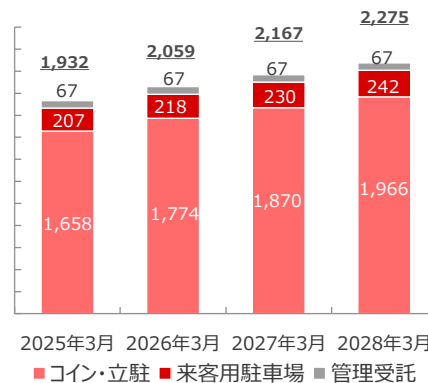
- ・周辺環境に合わせた、こまめな駐車料金の見直し
- ・サービス券提携店舗の拡充
- ・不採算駐車場の賃料交渉

■ サービス品質向上

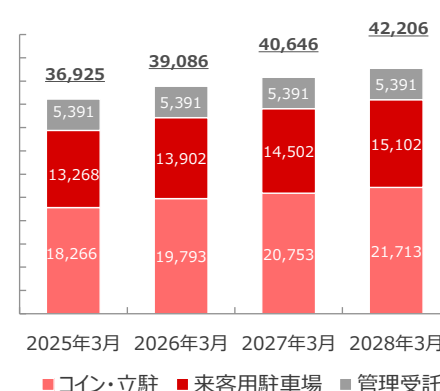
- ・設備の定期点検、駐車場の巡回点検をさらに強化
- ・キャッシュレス化、フラップレス化、カメラ認証チケットレスシステム導入、老朽化設備のリニューアルを推進。

02 箇所数/管理台数計画

■ 箇所数計画 (単位：箇所)



■ 管理台数計画 (単位：台)



【中期目標】

■ 売上高 **100億円** ■ 営業利益 **15億円**

■ 駐車場箇所数 **2,500箇所**



ジャンボスクエア香芝店様の駐車場

パーキング事業（セグメントSWOT分析）

Strengths（強み）

- コインパーキングの収益性を高める小回りの利いた販売促進策
- 病院等に付帯する立体駐車場の建設から管理運営までを一括して受注するPFI事業

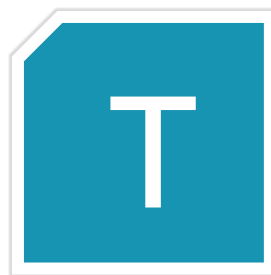


Weaknesses（弱み）

- 同業他社との商品・サービス内容の差別化が図りにくい

Opportunities（機会）

- 国内の自動車保有台数増加に伴う駐車場需要の拡大
- 自治体や病院等による駐車場の運営委託ニーズの拡大



Threats（脅威）

- 参入障壁が比較的低い事業であり競合社数が非常に多い
- 都市部における価格競争の激化

機械工具販売事業



01

自動車、産業用機械、空調、個人向けなど幅広い工具の商品開発・販売

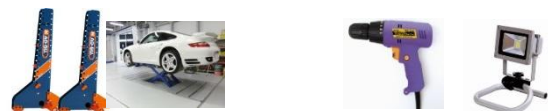
株式会社 イチネン アクセス

2022年4月にイチネンMTMの一部事業を吸収分割により継承し、新たにスタート。
各社が培ってきたノウハウを集結し、販売力・商品開発力の強化を図る

自動車用品



- ・機械工具
- ・自動車整備用機器
- ・先端/作業/電動工具
- ・照明/防犯



株式会社 イチネン MTM

産業・建機部品

自動車・農機部品



株式会社 イチネン TASC0

空調冷凍機器工具業界No.1の売上実績と高い信頼のTASC0ブランド



フロン回収機



サーモグラフィ



フロンリークモニター

02

イチネングループ公式通販サイトの運営

株式会社 イチネン ネット



03

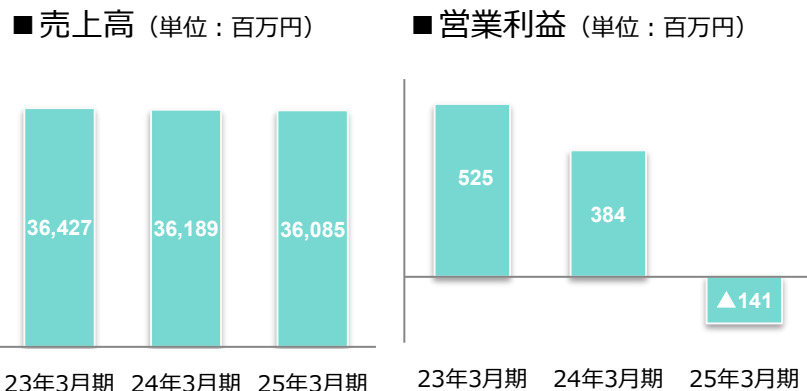
お客様満足度向上のための物流サービス事業

株式会社 イチネン ロジスティクス



01

売上/営業利益の推移



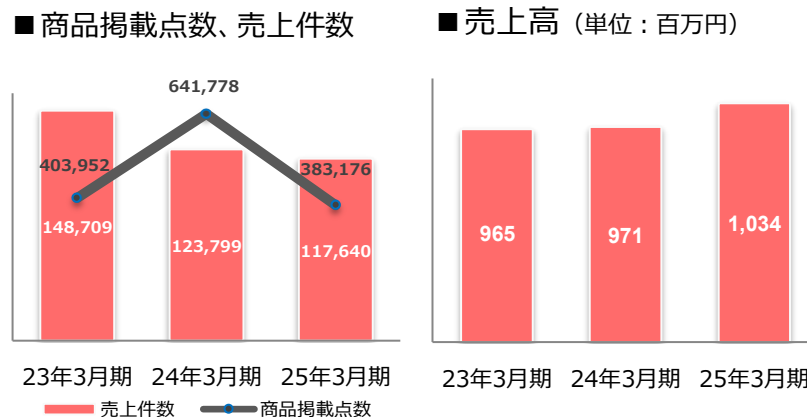
03

今後の課題、重点取り組み項目

- オリジナル製品の開発、販売強化による収益性向上
- ネット通販事業のさらなる収益拡大
- 脱炭素社会に向けた取扱い商材の拡充
- 海外展開の強化
- 物流機能の集約による効率化

02

ネット通販事業の進捗



【中期目標】

- セグメント売上高**500億円超**を目指し、業界ランキング**10位以内**の規模を目指す。



・ASEAN地域向け戦略ブランド「TASCO BLACK」

機械工具販売事業（セグメントSWOT分析）

Strengths（強み）

- 幅広い商品ラインナップを持ち自社ブランド製品も数多く展開
- TASCOブランドの空調工具は国内トップシェア
- 合併により相互の販路を活用したクロスセル等の仕入・販売面で高いシナジーが期待できる



Weaknesses（弱み）

- 業界上位の会社と比較して事業規模が小さく、バイイングパワーの点で劣る

Opportunities（機会）

- 脱炭素社会への移行に伴い、空調・冷凍機器における省エネ型自然冷媒への転換が進み、新冷媒に対応した空調工具の需要が拡大
- ネット通販市場の拡大



Threats（脅威）

- 国内の機械工具市場は飽和状態で大きな成長は見込めない
- 海外製品、ネット販売との競合による価格の下落
- 自動車の構造変化（EV・FCV化）に伴う自動車部品等の販売減少

01

合成樹脂事業の事業分野

■ 株式会社 イチネン 製作所

■ 遊技機部品事業

- ・大手遊技機メーカー様からの開発依頼に対し、企画やデザイン、設計(電気設計含む)、試作、金型製造、成形、量産、販売までを一気通貫で対応が可能。



■ 合成樹脂事業

- ・自動車のバンパーなどを再生し、リサイクル樹脂を製造、販売。
又、オリジナル再生樹脂の販売。



ペレット

■ 科学計測器事業

- ・大気中の環境チェックに必要な各種ガス濃度計や警報器等を製造、販売する。



ガス検知器



酸素モニター

■ マルイ工業株式会社

■ 自動車用内外装部品事業

- ・大手日系自動車メーカーにエンブレムを中心とした外装装飾部品及び、レーザー加工技術等によるオーディオエスカッションボタン等の内装部品を日本及びタイで製造・販売。
- ・これまで培ってきた各種樹脂へのめっき、塗装、印刷等の高度な表面処理技術、成形技術やノウハウを生かし、あらゆる装飾部品のニーズに対応したデザインから設計開発、生産、品質保証まで一貫して製品を提供。



自動車用エンブレム



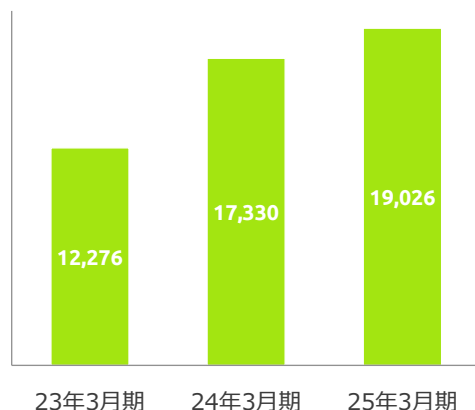
オーディオエスカッション

合成樹脂事業

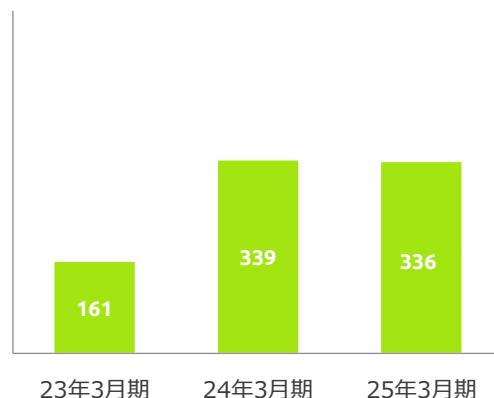
02

売上/営業利益の推移

■ 売上高 (単位: 百万円)



■ 営業利益 (単位: 百万円)



※上記、23年3月期の売上・営業利益には、
マルイ工業株式会社及びMARUI SUM (THAILAND) CO., LTD.
MARUI INDUSTRY (THAILAND) CO., LTD.
の売上・営業利益が含まれておりません。

03

今後の課題、重点取り組み項目

■ 株式会社 **イチネン** 製作所

■ 遊技機部品事業・・・売上、利益の安定化

- ⇒ 販売台数上位メーカーの筐体部材獲得に注力する。
- ⇒ 次世代型遊技機向けの部材開発、提案力強化を推進する。

■ 合成樹脂事業・・・高付加価値材料の拡販

- ⇒ 自社で保有する再生技術を強みとし、高付加価値のリサイクル樹脂を拡販する

■ 科学計測器事業・・・新製品の開発、マーケットシェア拡大

- ⇒ 産業マーケットでのシェア拡大に向け、大手メーカーが対応しない領域の新製品開発・販売に注力する。

■ マルイ工業株式会社

■ 新規顧客の開拓

■ 製品の更なる生産効率向上・量産化

■ 海外売上・事業展開の強化

■ EV向け部品等の新商品の開発・販売

【中期目標】

■ セグメント売上高**300億円超**を目指す。

合成樹脂事業（セグメントSWOT分析）

Strengths（強み）

- 各事業において、主要大手メーカー（自動車メーカー、遊技機メーカー等）との安定的な取引関係を維持
- 製品のデザインから金型設計、成形、特殊加工、組立まで一気通貫の生産体制を構築



Weaknesses（弱み）

- 合成樹脂事業のリサイクル樹脂は仕入れ・販売価格とも市場相場の影響を非常に受け易く変動し易い
- 自動車用内外装部品は、完全機械化が難しい工程が多く、省人化が途上である

Opportunities（機会）

- 遊技機部品事業の市場は縮小傾向にあるものの、依然として15兆円規模の市場があり、競争に勝ち抜くことで大きな収益を上げることが可能
- 自動車用内外装部品事業で培った高い技術力をベースとした非自動車分野の拡販



Threats（脅威）

- 遊技機部品の販売における顧客からのコスト削減ニーズの高まり
- EV化の進展に伴う自動車用内外装部品の需要変化、構造変化への対応が必要

01

農業関連事業の事業分野

- 株式会社 **イチネン 農園**
- 株式会社 **イチネン 高知日高村 農園**

・イチネン高知日高村農園では、高知県高岡郡日高村で2.1haの大規模ハウスでミニトマトを栽培。
2022年夏より同じく高知県の南国市で1.1haの次世代ハウスでピーマンの栽培を開始。
また、農作物の栽培だけでなく、各地域の農業関係とともに地域野菜の普及や、6次産業化、農業のIT化等に積極的に取り組みを実施。



■ 日東エフシー株式会社

■ 明京商事株式会社

■ 日東運輸倉庫株式会社

■ 肥料事業

- ・原料調達から製造、包装、出荷まで一気通貫で対応できる体制を整えており、多種多様な肥料を自社で製造・販売。
また、栽培ノウハウの知見を有し、肥料の製造販売だけでなく、農家への栽培指導も実施。



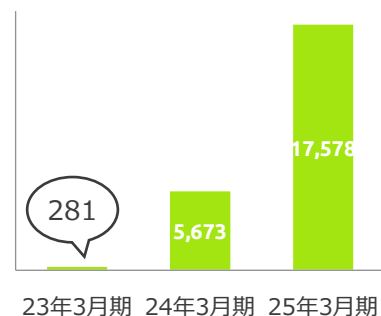
■ 商社事業

- ・日東エフシーの子会社である明京商事を通じて、海外の化学・肥料メーカーからの直接調達ルートを持ち、Canpotex(カナダ)やYara(ノルウェー)等の製品の輸入・販売を展開。
また、AlzChem(ドイツ)の石灰窒素に関しては、総輸入販売代理権を保有。

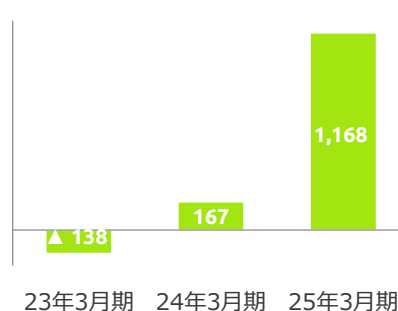
02

売上/営業利益の推移

■売上高 (単位：百万円)



■営業利益 (単位：百万円)



※上記、23年3月期の売上・営業利益には、日東エフシー及びその子会社8社並びに孫会社1社の売上・営業利益が含まれておりません。

03

今後の課題、重点取り組み項目

- 販売ルート多角化に向けた新規顧客の開拓
- 栽培農作物以外の新規事業での売上構築
(加工品、仕入野菜、中古農機販売等)
- 農業ベンチャー企業と連携したDX化の促進
- 安定した材料調達先の確保
- 生産効率の向上、製品ラインナップの拡充

【中期目標】

- 【社会課題の解決へ】
- ・食への安全意識向上
 - ・農業人口の減少
 - ・耕作放棄地の増加
 - ・食糧自給率の低下
 - ・地域の活性化

2016年
農業に参入

農地拡大

6次化

自動化
(AI、ロボット)

日東エフシーが
グループに加入し、
農業関連事業の規模を
大幅に拡大

自動車リース関連
事業に次ぐ
主力事業の一つに
成長させる

日高村



南国市



肥料



→高知県は全国第三位のピーマン産地
(栽培に適した土地)

農業関連事業（セグメントSWOT分析）

Strengths（強み）

- 次世代型大規模ハウスにより安定的な農作物の供給が可能
- 肥料事業において、原材料の調達から製造・包装・出荷まで一貫した生産体制を構築
- 自社の土壌分析設備、試験圃場等を活用した生産者への栽培指導



Weaknesses（弱み）

- 市場単価によって農作物の販売価格が大きく影響される
- 肥料事業は全農の価格設定によって販売価格が大きく影響される

Opportunities（機会）

- 農業のDX化による農作物の栽培の更なる効率化
- 企業による農業の大規模化に対応した肥料の拡販、当社シェア拡大
- 液体肥料、当社が強みを持つ樹脂不使用の緩効性肥料の更なる販売強化



Threats（脅威）

- 農作物の生産における原材料のさらなる価格の高騰（燃料代、資材費等）
- 国内農家数の減少や耕地面積減少に伴う肥料需要の長期的な減少トレンド

2025年3月期 連結損益計算書 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2024年3月期		2025年3月期		前期比 増減率	2025年 3月期 計画	計画比
		金 額	構成比	金 額	構成比			
売上高		138,253	100.0%	154,920	100.0%	112.1%	160,000	96.8%
	自動車リース関連	58,673	42.1%	61,361	39.3%	104.6%	58,536	104.8%
	ケミカル	11,918	8.6%	11,854	7.6%	99.5%	12,074	98.2%
	パーキング	7,497	5.4%	7,905	5.1%	105.4%	8,106	97.5%
	機械工具販売	36,189	26.0%	36,085	23.1%	99.7%	39,111	92.3%
	合成樹脂	17,330	12.4%	19,026	12.2%	109.8%	19,800	96.1%
	農業関連	5,673	4.1%	17,578	11.3%	309.9%	21,417	82.1%
	その他	2,075	1.4%	2,153	1.4%	103.7%	2,086	103.2%
	調整額	▲1,104	-	▲1,044	-	-	▲1,130	-
売上総利益		29,775	21.5%	34,024	22.2%	114.3%	33,104	102.8%
販売管理費		20,730	15.0%	23,744	15.3%	114.5%	23,904	99.3%
営業利益		9,045	6.5%	10,279	6.6%	113.6%	9,200	111.7%
経常利益		9,460	6.8%	10,318	6.7%	109.1%	9,000	114.7%
親会社株主に帰属する当期純利益		12,253	8.9%	6,657	4.3%	54.3%	5,700	116.8%

自動車リース関連事業は車両リースが堅調に推移したことに加え、中古車相場高騰により車両販売が好調に推移したことから売上・利益が増加しました。パーキング事業、その他事業は販売が増加しました。また、前連結会計年度より連結子会社となった、マルイ工業(株)及び日東エフシー(株)の業績が寄与したこと等により合成樹脂事業並びに農業関連事業の販売が増加しました。これらの結果、売上高、営業利益、経常利益の項目で過去最高値を更新しました。

2025年3月期 セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)

単位：百万円		2024年 3月期	2025年 3月期	前 期 比 増 減 率	2025年 3月期 計画	計 画 比
		金 額	金 額			
営業利益		9,045	10,279	113.6%	9,200	111.7%
	自動車リース関連	5,794	6,547	113.0%	4,804	136.3%
	ケミカル	998	848	84.9%	1,032	82.2%
	パーキング	1,121	1,265	112.8%	1,157	109.3%
	機械工具販売	384	▲141	-	661	-
	合成樹脂	339	336	99.2%	286	117.8%
	農業関連	167	1,168	698.9%	1,005	116.3%
	その他	216	236	109.2%	235	100.7%
	調整額	22	19	-	20	-

(自動車リース関連)
・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
・車両販売の販売単価が上昇。

(ケミカル)
・自動車整備工場向けケミカル製品、機械工具商向けケミカル製品及び船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
・燃料添加剤及び石炭添加剤並びに一般消費者向けケミカル製品の販売は減少。
・販売減少に加えて営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により利益が減少。

(パーキング)
・新規駐車場の開発は順調に推移。
・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)
・自動車部品及び産業資材並びに空調工具及び計測工具の販売は順調に推移。
・建設機械部品及び産業機械部品の販売は減少。
・急激な為替変動の影響に加えて営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により利益が減少。

(合成樹脂)
・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は減少。
・マルイ工業の海外子会社において、退職給付費用計上等の影響により利益が減少。

(農業関連)
・既存農場における農作物の販売単価の上昇等の影響により利益が増加。
・前期に連結子会社となった日東エフシーが利益増加に寄与。

2025年3月期 連結貸借対照表 (百万円未満切捨)



■ 資産の部

単位：百万円	2024年 3月	2025年 3月	増減額
流動資産	94,997	96,914	+1,917
受取手形及び売掛金	21,637	20,849	▲788
リース債権及びリース投資資産	28,913	31,229	+2,316
商品及び製品	15,830	14,920	▲910
固定資産	107,547	108,376	+829
賃貸資産	60,516	62,250	+1,734
投資有価証券	6,863	6,055	▲808
繰延資産	61	79	+17
資産合計	202,606	205,371	+2,765

■ 負債の部

単位：百万円	2024年 3月	2025年 3月	増減額
流動負債	63,559	57,506	▲6,052
支払手形及び買掛金	16,076	15,015	▲1,061
短期有利子負債	33,166	30,282	▲2,883
固定負債	78,038	82,468	+4,429
長期有利子負債	74,381	78,391	+4,010

■ 純資産の部

純資産合計	61,007	65,395	+4,388
利益剰余金	53,887	59,054	+5,167
負債・純資産合計	202,606	205,371	+2,765

《資産の部》

- 「受取手形及び売掛金」の減少 7億88百万円
- ファイナンス・リース取引の契約増加による「リース投資資産」の増加 23億16百万円
- 「賃貸資産」の増加 17億34百万円
- 「投資有価証券」の減少 8億8百万円

《自己資本比率》

- 2025年3月期の自己資本比率31.5% ⇒中期数値目標は、自己資本750億円超、自己資本比率35%超

2025年3月期 連結キャッシュ・フロー等 (百万円未満切捨)



■ キャッシュ・フロー

単位：百万円	2023年3月	2024年3月	2025年3月	前期比増減額
営業活動	2,716	5,266	4,018	▲1,248
投資活動	▲1,860	▲16,541	▲2,067	+14,473
財務活動	▲1,778	+9,636	▲1,329	▲10,966

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー：+40億18百万円
 (主な要因) ⇒「税金等調整前当期純利益」：+101億95百万円、
 オペレーティング・リース取引の契約増加による「賃貸資産の増加」：△176億8百万円、
 「減価償却費」：+186億61百万円、「売上債権の減少」：+20億35百万円、
 「仕入債務の減少」：△18億5百万円、「法人税等の支払額」：△68億61百万円、
 「リース債権及びリース投資資産の増加」：△29億70百万円、「棚卸資産の減少」18億2百万円
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー：△20億67百万円
 (主な要因) ⇒「有形及び無形固定資産の取得による支出」：△21億30百万円
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フロー：△13億29百万円
 (主な要因) ⇒「借入れによる収入」：+185億円、「社債の発行による収入」：+99億52百万円、
 「借入金の返済による支出」：△231億43百万円、
 「社債の償還による支出」：△52億30百万円、「配当金の支払額」：△15億2百万円

■ 設備投資・減価償却

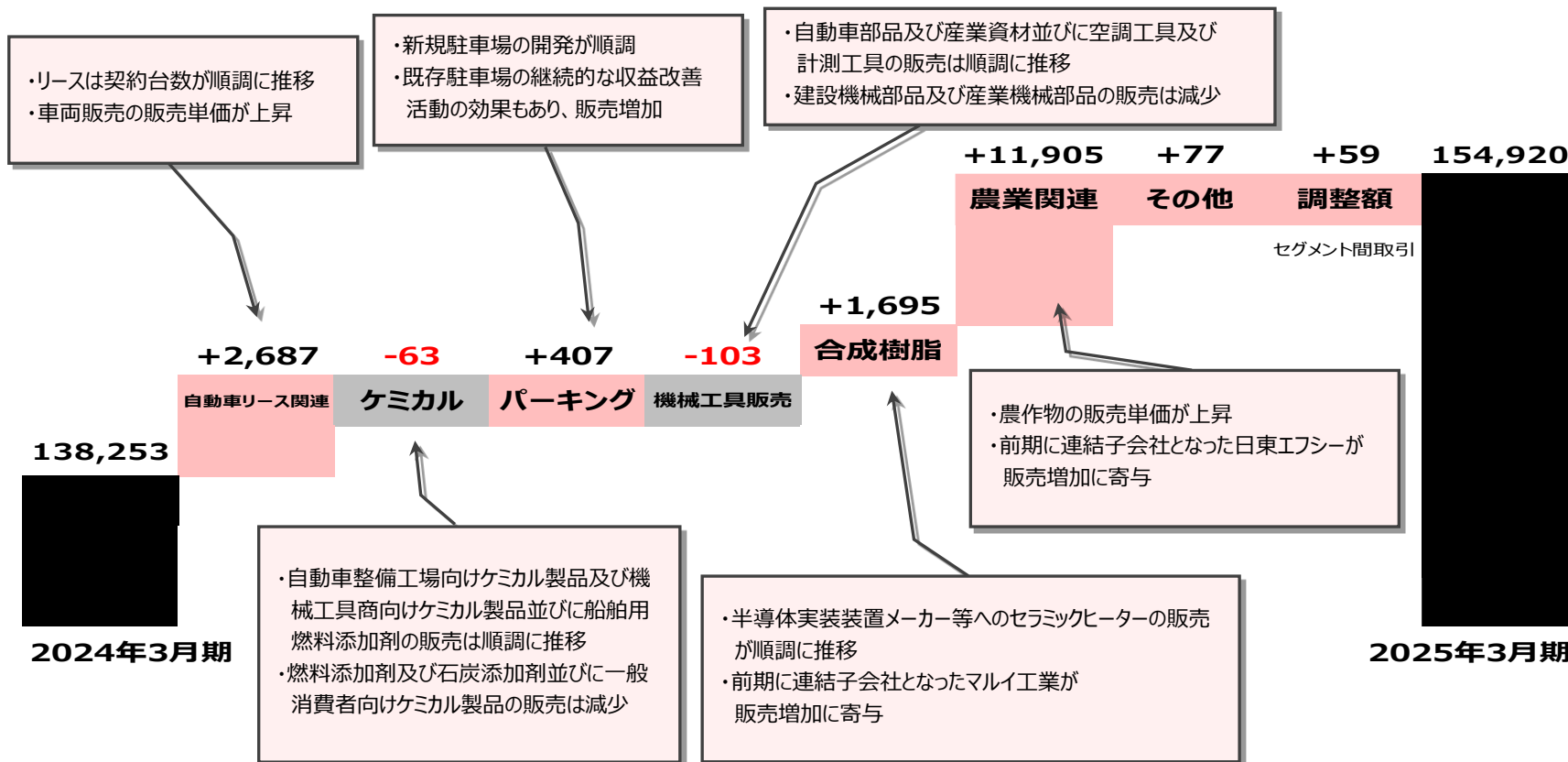
単位：百万円	2023年3月	2024年3月	2025年3月	前期比増減額
設備投資	17,448	18,952	21,623	+2,670
うちリース資産	15,640	17,404	19,349	+1,944
減価償却	17,242	17,855	18,661	+805
うちリース資産	15,375	15,681	16,130	+449

2025年3月期 連結売上高 対前期比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結売上高 対前期比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
前期	58,673	11,918	7,497	36,189	17,330	5,673	2,075	-1,104	138,253
当期	61,361	11,854	7,905	36,085	19,026	17,578	2,153	-1,044	154,920
前期増減	2,687	-63	407	-103	1,695	11,905	77	59	16,666



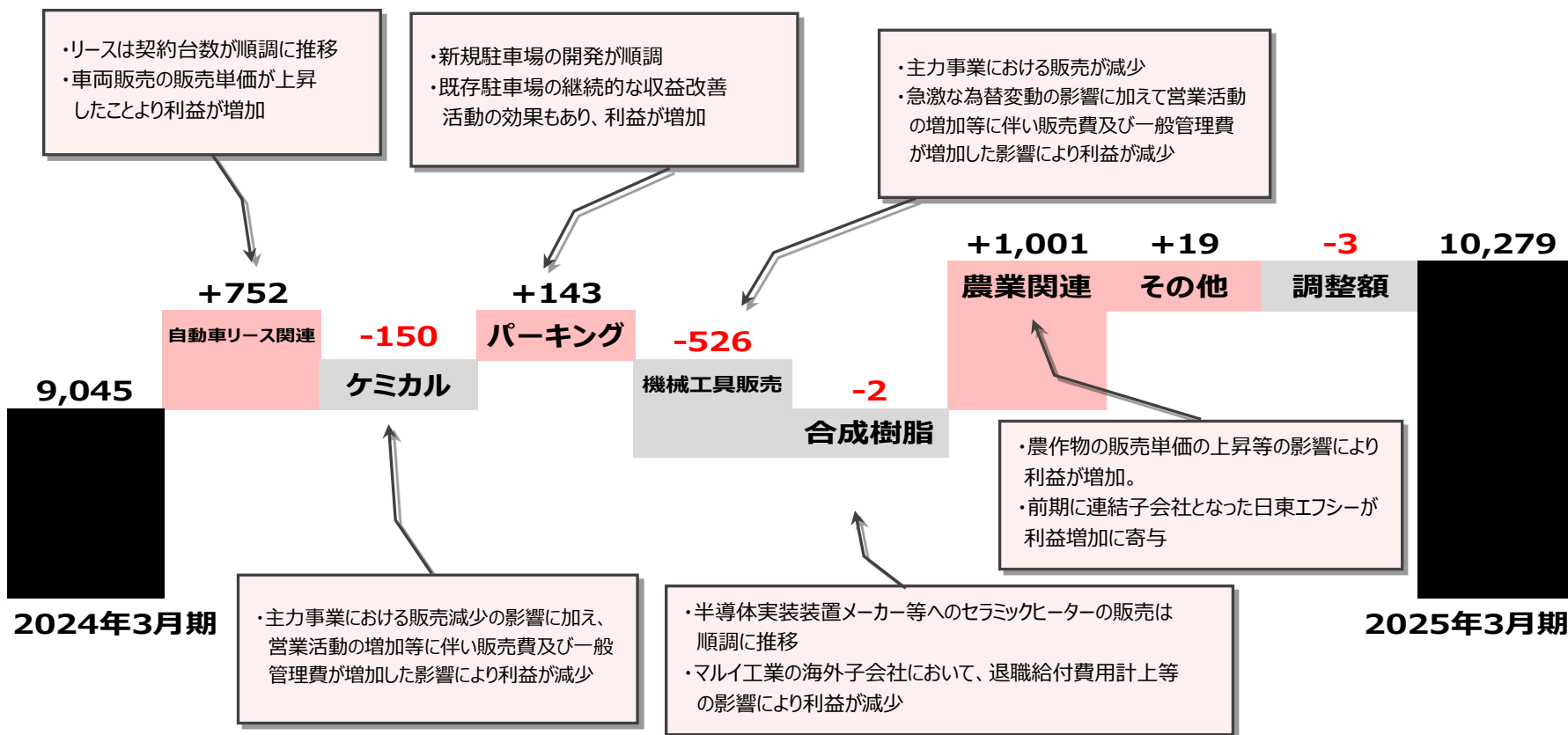
※連結売上高の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結營業利益 対前期比増減要因 (百万円未満切捨)

■連結営業利益 対前期比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
前期	5,794	998	1,121	384	339	167	216	22	9,045
当期	6,547	848	1,265	-141	336	1,168	236	19	10,279
前期増減	752	-150	143	-526	-2	1,001	19	-3	1,234



※連結営業利益の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結売上高 対計画比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結売上高 対計画比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
計画	58,536	12,074	8,106	39,111	19,800	21,417	2,086	-1,130	160,000
実績	61,361	11,854	7,905	36,085	19,026	17,578	2,153	-1,044	154,920
計画差異	2,825	-219	-200	-3,025	-773	-3,838	67	85	-5,079

・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商
向けケミカル製品、燃料添加剤及び、一般消費者
向けケミカル製品の販売が計画を下回った

・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が計画を下回った
・タイ国内における日系自動車メーカーの生産台数減少の
影響により、自動車用内外装部品の販売が計画を下回った

・収益認識基準による「代理人取引」に該当する
売上高が計画には計上されているが、実績には
含まれていないため、計画との差異が生じた

・新規駐車場の開発が計画を下回った

・車両販売並びに燃料給油カードの
販売単価が計画よりも上昇

・自動車部品及び産業資材、建設機械
部品並びに産業機械部品の販売が
計画を下回った

160,000

2025年
3月期計画

-773

合成樹脂

-3,838

農業関連

+67

その他

+85

調整額

154,920

セグメント間取引

2025年
3月期実績

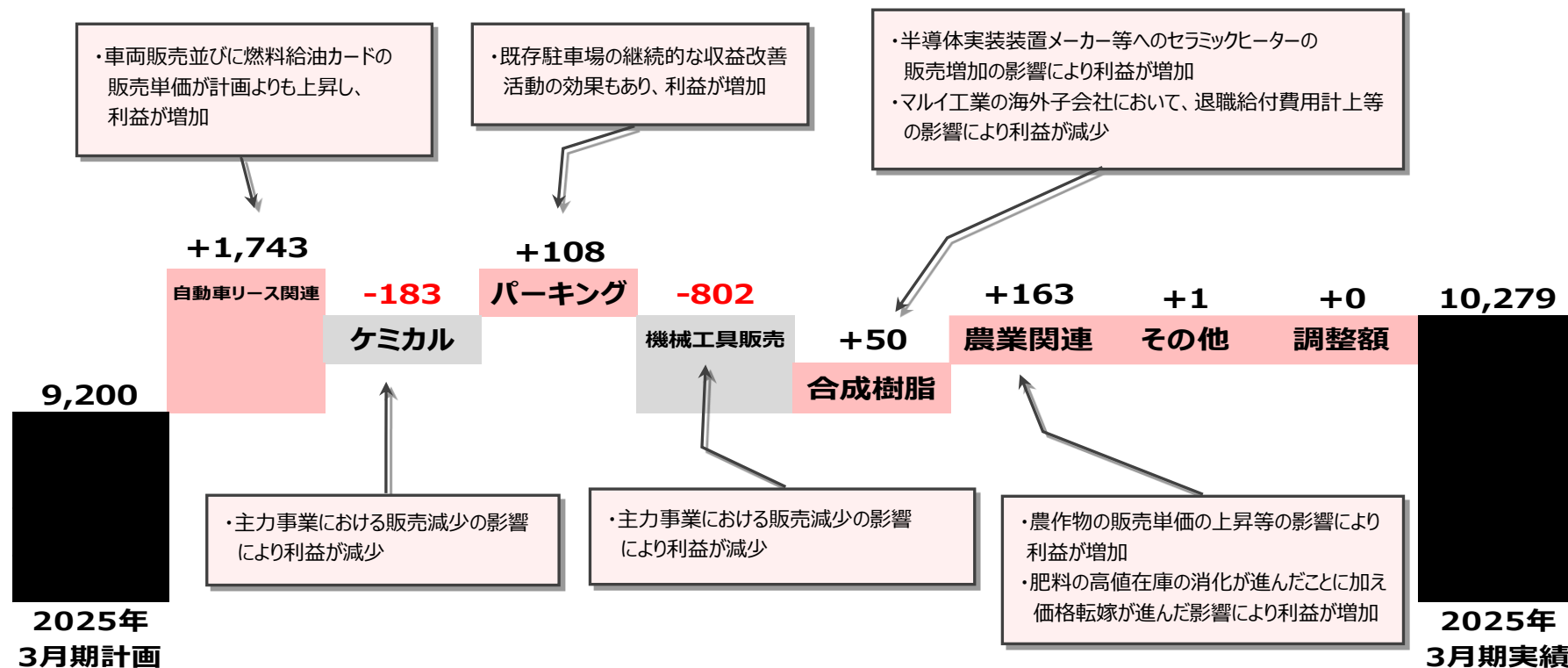
※連結売上高の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結営業利益 対計画比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結営業利益 対計画比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
計画	4,804	1,032	1,157	661	286	1,005	235	20	9,200
実績	6,547	848	1,265	-141	336	1,168	236	19	10,279
計画差異	1,743	-183	108	-802	50	163	1	0	1,079



※連結営業利益の要因分析は内部消去前の金額です。

01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

2026年3月期 計画（連結）【2025年5月2日公表数値】（百万円未満切捨）

単位：百万円		2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期計画	前期比の主な増減要因
売上高	自動車リース関連	58,673	61,361	60,699	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	11,918	11,854	12,472	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	7,497	7,905	8,304	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善、設備リニューアルによる稼働率向上
	機械工具販売	36,189	36,085	39,466	高単価・高収益商材の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	17,330	19,026	21,804	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	5,673	17,578	18,150	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	2,075	2,153	2,143	
	調整額	▲1,104	▲1,044	▲1,038	
合 計		138,253	154,920	162,000	
営業利益	自動車リース関連	5,794	6,547	5,467	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	998	848	988	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	1,121	1,265	1,358	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善
	機械工具販売	384	▲141	603	高収益な自社オリジナル商品の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	339	336	511	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	167	1,168	1,228	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	216	236	230	
	調整額	22	19	15	
合 計		9,045	10,279	10,400	
経常利益		9,460	10,318	10,030	
親会社株主に帰属する当期純利益		12,253	6,657	6,200	
株主資本利益率（ROE）		22.54%	10.65%	9.26%	
総資産経常利益率（ROA）		5.05%	5.06%	4.80%	

2026年3月期 四半期セグメント別利益計画 (百万円未満切捨)



単位：百万円		第1四半期	第2四半期（累計）	第3四半期（累計）	第4四半期（累計）
自動車リース関連	売上高	15,192	30,643	45,770	60,699
	売上総利益	2,983	6,320	8,972	12,415
	営業利益	1,280	2,921	3,836	5,467
ケミカル	売上高	3,007	6,103	9,470	12,472
	売上総利益	1,248	2,549	3,892	5,120
	営業利益	193	480	779	988
パーキング	売上高	2,015	4,098	6,212	8,304
	売上総利益	529	1,109	1,693	2,227
	営業利益	316	683	1,050	1,358
機械工具販売	売上高	9,554	19,505	29,559	39,466
	売上総利益	1,856	3,855	5,753	7,692
	営業利益	68	305	431	603
合成樹脂	売上高	5,145	10,582	16,544	21,804
	売上総利益	987	2,050	3,218	4,318
	営業利益	46	148	377	511
農業関連	売上高	4,958	8,555	12,988	18,150
	売上総利益	1,177	1,590	2,334	3,181
	営業利益	628	591	842	1,228
その他	売上高	494	998	1,613	2,143
	売上総利益	163	331	566	736
	営業利益	32	75	184	230
調整額	売上高	▲241	▲484	▲779	▲1,038
	売上総利益	▲39	▲76	▲114	▲152
	営業利益	4	7	11	15
合 計	売上高	40,124	80,000	121,377	162,000
	売上総利益	8,904	17,728	26,314	35,537
	営業利益	2,567	5,210	7,510	10,400

2026年3月期 第1四半期連結損益計算書（百万円未満切捨）



単位：百万円		2025年 3月期1Q		2026年 3月期1Q		前期比 増減率	2026年 3月期 1Q 計画	計画比
		金 額	構成比	金 額	構成比			
売上高		39,522	100.0%	41,145	100.0%	104.1%	40,124	102.5%
	自動車リース関連	15,453	38.9%	16,168	39.0%	104.6%	15,192	106.4%
	ケミカル	2,828	7.1%	2,825	6.8%	99.9%	3,007	94.0%
	パーキング	1,929	4.9%	1,988	4.8%	103.0%	2,015	98.7%
	機械工具販売	8,981	22.6%	9,485	22.9%	105.6%	9,554	99.3%
	合成樹脂	4,939	12.4%	4,834	11.7%	97.9%	5,145	94.0%
	農業関連	5,144	12.9%	5,553	13.4%	108.0%	4,958	112.0%
	その他	484	1.2%	556	1.4%	114.8%	494	112.6%
	調整額	▲239	-	▲266	-	-	▲241	-
売上総利益		8,847	22.4%	9,138	22.2%	103.3%	8,904	102.6%
販売管理費		5,502	13.9%	5,888	14.3%	107.0%	6,337	92.9%
営業利益		3,345	8.5%	3,250	7.9%	97.2%	2,567	126.6%
経常利益		3,481	8.8%	3,292	8.0%	94.6%	2,544	129.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,273	5.8%	2,470	6.0%	108.7%	1,622	152.3%

2026年3月期 第1四半期セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前 期 比 増 減 率	2026年 3月期1Q 計画	計 画 比
		金 額	金 額			
営業利益		3,345	3,250	97.2%	2,567	126.6%
	自動車リース関連	1,933	1,926	99.6%	1,280	150.5%
	ケミカル	175	246	140.7%	193	127.6%
	パーキング	307	341	111.2%	316	108.1%
	機械工具販売	14	136	925.1%	68	200.0%
	合成樹脂	536	▲33	-	46	-
	農業関連	299	599	200.5%	628	95.5%
	その他	74	29	39.1%	32	91.3%
	調整額	4	4	-	4	-

(自動車リース関連)

- ・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
- ・燃料給油カードの販売単価が上昇。
- ・営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により、利益は前年同期並みの水準で推移。

(ケミカル)

- ・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品並びに船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
- ・石炭添加剤及び一般消費者向けケミカル製品の販売が減少。
- ・原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加。

(パーキング)

- ・新規駐車場の開発は順調に推移。
- ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)

- ・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移。
- ・建設機械部品の販売は減少。

(合成樹脂)

- ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売が順調に推移。
- ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が、前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少。
- ・マルイ工業の海外子会社2社の業績が、決算期変更に伴い前年同期には連結されていなかった影響により、販売が増加。

(農業関連)

- ・肥料製品の販売は順調に推移。
- ・農作物の販売数量は増加したものの、流通市場での単価は下落。
- ・肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加

株主還元について

01

配当に関する方針

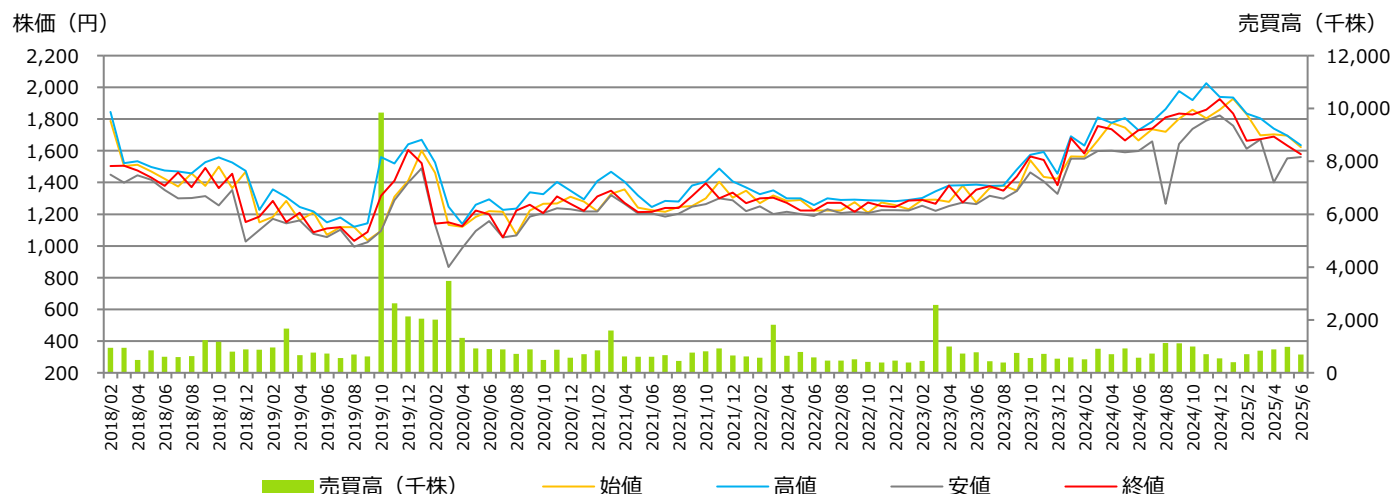
- 連結業績を基本とする配当政策といたします。
- 配当性向は、連結当期純利益の20%～30%程度とすることを目標として検討しております。

1株あたりの配当金（予想）

中間期末	期 末	年 間
35円	35円	70円

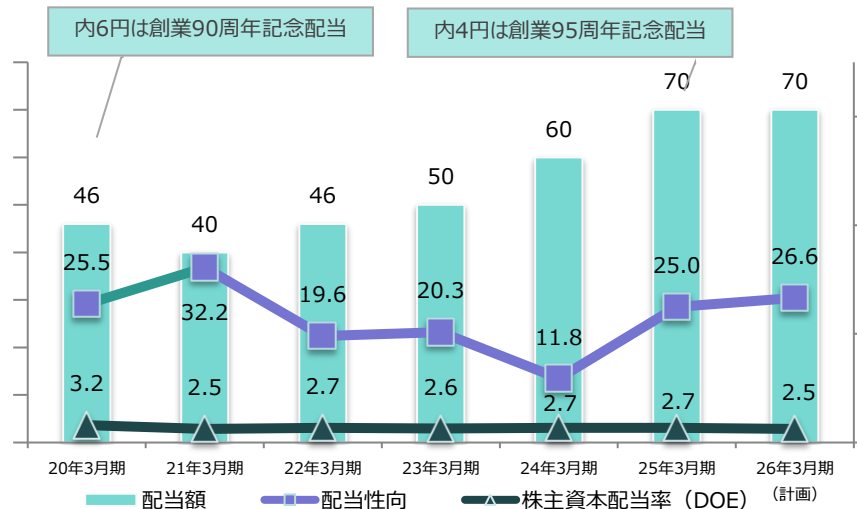
02

株価の推移



※株価及び売買高の表示は月次ベースです。（株価は月末時点の数値、売買高は月の売買高の合計）

配当額、配当性向、DOEの推移



当社は2023年3月末日時点の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって、株主優待制度を廃止いたしました。

統合報告書・TCFDレポート発刊のご案内



◇統合報告書

東証プライム上場企業として、非財務情報の開示を一層強化するため、2021年よりグループ横断の社内プロジェクトを組成し、統合報告書の制作を進めてまいりました。
イチネングループの企業価値創造に向けた取り組みを掲載しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。

統合報告書掲載サイト

<https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library6/>

◇TCFDレポート

2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにより、東証プライム上場企業には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づいた気候変動問題に対する情報開示が求められています。

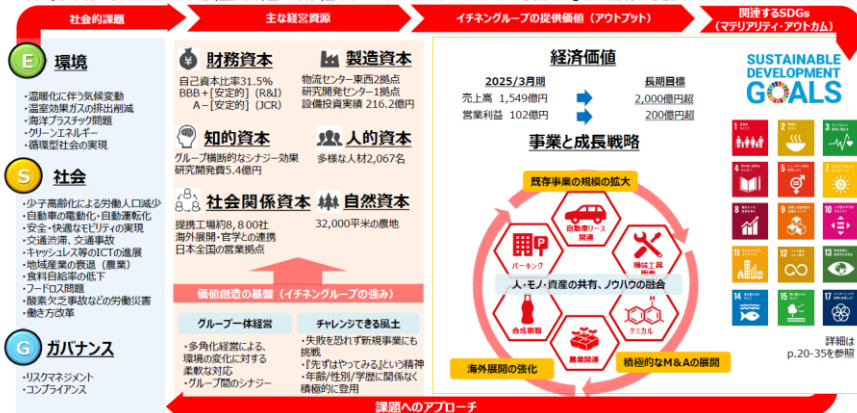
現状において、当社グループが認識している気候変動問題に係るリスク、機会、並びにそれらへの対応策等について、『イチネングループTCFDレポート』として取りまとめましたので、是非下記URLよりご覧ください。

TCFDレポート掲載サイト

<https://www.ichinenhd.co.jp/environment/tcfd/>

価値創造モデル

イチネングループは、さまざまな社会課題に取り組み、「いちねんで、いちばんの毎日を。」をお客様に提供します。



イチネングループ
TCFDレポート 2025

参考資料：環境問題への取り組み

イチネングループは**多様な事業展開**を強みとして、**様々なソリューション**により**環境問題の解決に貢献**します

環境問題の分類	解決すべき課題	イチネングループのソリューション
気候変動	温室効果ガスの増加 オゾン層の破壊	【自動車リース関連事業】 ◆「イチネンテレマティクス」の販売によるエコドライブの推進（P.64参照） ➢ <u>CO2排出量の削減に貢献</u> 【パーキング事業】 ◆駐車場の開発促進による交通渋滞緩和（P.63参照） ➢ <u>CO2排出量の削減に貢献</u> 【機械工具販売事業】 ◆「冷媒回収装置」の開発、販売によるフロンガスの漏洩防止（P.63参照） ➢ <u>オゾン層の破壊防止に貢献</u>
海洋汚染	プラスチックごみの海洋流出 (マイクロプラスチック問題)	【ケミカル事業】 ◆汎用樹脂用バイオマス添加剤「ONEバイオ」の開発、販売（P.63参照） ➢ <u>プラスチック使用量の削減に貢献</u> 【合成樹脂事業】 ◆自社ブランドのリサイクル樹脂の開発、販売（P.63参照） ➢ <u>プラスチック使用量の削減に貢献</u>

参考資料：ESG・SDGsの取り組み



Environment [環境]



■ケミカル事業：脱炭素社会に貢献するバイオマス添加剤について

イチネンケミカルズは、長年にわたる火力発電向け燃料添加剤の製造技術・経験を応用して、**バイオマス発電向けの燃料添加剤「バイオニックシリーズ」**を展開しております。

また、新たに開発した**汎用樹脂向けバイオマス添加剤「ONE バイオ」**は、汎用樹脂（PE・PP）ペレットに混ぜることで、製品の原料の一部を植物由来原料とすることができ、脱炭素社会の実現に貢献できる製品となっています。



■パーキング事業：交通渋滞緩和による環境負荷の低減

駐車場不足は違法駐車を引き起こす一因であり、違法駐車は交通渋滞や交通事故などに繋がります。駐車場の開発を推進することで、交通渋滞緩和による環境負荷の低減を実現します。



■機械工具販売事業：オゾン層保護・地球温暖化防止大賞 受賞！

オゾン層保護対策と地球温暖化防止や対策の促進を目的として、日刊工業新聞社が毎年実施している「**オゾン層保護・地球温暖化防止大賞**」において、イチネンTASCOの

「**冷媒回収装置「クワトロ」TA110VF**」が「**経済産業大臣賞**」を受賞いたしました。

【改善点】

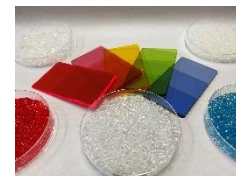
・パワフルな4ピストンコンプレッサーや独自の運転切替機能を
はじめとした数々の技術・機能により、残存フロン回収の能力を向上。



■合成樹脂事業：リサイクルペレットの製造/販売

イチネン製作所は、企業から排出されるプラスチックゴミからリサイクルペレットを製造、販売しており、リサイクル材では難しい『**自社ブランドの規格品**』を揃え、「モノづくり」を行うメーカー企業様を中心に広くご提供できる体制を整えております。

リサイクル案件は環境問題への貢献に繋がる事業であり、積極的に推進いたします。

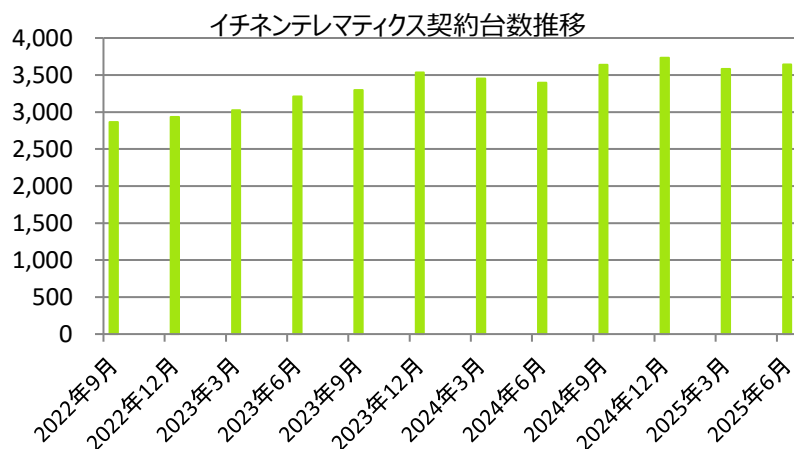


参考資料：ESG・SDGsの取り組み



■自動車リース関連事業：イチネンテレマティクスによる交通事故撲滅のご提案

2015年よりイチネンテレマティクス(車載端末を活用した情報サービス)の販売を開始し、リース車両の商談ではテレマティクスによる交通事故撲滅の提案を推進しております。テレマティクスから得られた情報を基に、ドライバーの安全運転管理・教育を行い、お客様の交通事故削減を目指します。また、エコドライブへの意識向上により燃費が改善し、CO2削減が期待されます。



■農業を通じた地域貢献

日本の誇るべき農業を通じて雇用を促進させ、地域コミュニティとの連携も行い、地域活性化に貢献できるよう努力し、安全、安心、そして美味しい野菜をお届けします。さらに、農場では海外からの技能実習生も受け入れており、途上国への技術の移転や普及に農業を通じて貢献できるよう取り組んでまいります。



■女性役員比率21.4%

2023年7月末時点における東証プライム上場企業の女性役員比率13.4%を大きく上回る水準となっております。

(引用：内閣府 男女共同参画局
2023年度プライム市場上場企業「女性役員比率」調査)

○取締役及び監査役 (2025年6月17日現在)

代表取締役社長	黒田 雅史
取締役副社長	黒田 勝彦
取締役 常務執行役員	村中 正
取締役 常務執行役員	井本 久子
取締役	木村 平八
取締役(社外)	廣富 靖以
取締役(社外)	川村 群太郎
取締役(社外)	常陸 均
取締役(社外)	下村 信江
取締役(社外)	宮口 亜希
常勤監査役	足立 広志
常勤監査役(社外)	青山 俊治
常勤監査役(社外)	奥田 雅輝
監査役(社外)	中川 一之

■指名・報酬委員会の設置

取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として2021年3月より指名・報酬委員会を設置いたしました。委員7名中5名が社外取締役で構成されております。

■取締役会の実効性評価

2019年3月期からは取締役会の実効性に関する自己評価を開始し、その結果を公表するとともに、必要な改善に取り組んでおります。

参考資料：知名度向上戦略



- 2014年10月より、全国ネットでテレビCMを放映しております。
- 当社の事業は、これまでのBtoB中心の領域からBtoCの領域に広がっており
- “イチネン”の知名度向上により、更なる事業拡大を図ります。

マルイ工業株式会社のご紹介

01 マルイ工業株式会社 会社概要



- マルイ工業株式会社
Marui Industrial Co., Ltd.
- 代表取締役社長 中澤 鉄
- 設立 1947年6月7日
- 本社 新潟県胎内市高畑字新割53番地2
- 資本金 100百万円
- 売上高 7,328百万円（2025年3月期）
（※マルイ工業及び子会社2社の単純合算）

03 グループ化の目的

マルイ工業は、国内外において樹脂を利用したエンブレム等の自動車用内外装部品を製造・販売しております。

グループ化に伴い、既存の合成樹脂事業とマルイ工業のそれぞれが持つ樹脂製品の製造ノウハウの共有や製造拠点の相互活用、機械工具販売事業においては製品ラインナップの拡充による収益基盤の強化が期待でき、さらにはマルイ工業のタイにおける製造・販売拠点を当社グループ全体で活用することにより、当社グループが注力する海外事業の規模拡大に大きく寄与するものと考えております。

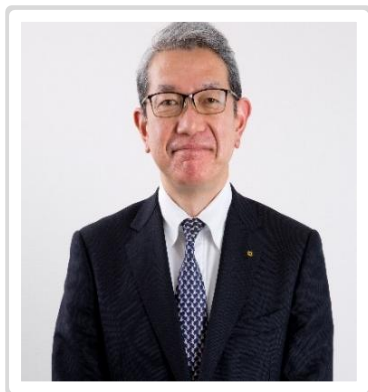
02 技術紹介

自動車用エンブレム等外装部品



日東エフシー株式会社のご紹介

01 日東エフシー株式会社 会社概要



- 日東エフシー株式会社
NITTO FC Co., Ltd.
 - 代表取締役社長 木村 平八
 - 創立 1952年1月18日
 - 本社 名古屋市港区いろは町1-23
 - 資本金 100百万円
 - 売上高 30,114百万円 (2025年3月期)
- (※日東エフシー及び子会社9社の単純合算)

03 グループ化の目的

日東エフシーは、国内において70数年に亘り化成肥料、配合肥料、液体肥料、土壌改良材などを製造・販売しております。また、自社で保有する試験圃場や土壌分析設備を活用し、肥料の販売のみならず農家への栽培指導も行うなど、農業現場における豊富な知見を有しております。

本件の株式取得に伴い、日東エフシーグループが持つ農業関連の知見、技術を当社グループの農業関連事業の規模拡大及び収益性向上に最大限活かすことができ、さらには肥料事業に係る技術開発力と、当社グループのケミカル事業が持つ技術力を融合することで、新製品の開発や新規事業領域への進出にも繋げてまいりたいと考えております。

02 製品紹介

作物・使用時期・使用用途に合わせた各種肥料



日石硝子工業株式会社のご紹介

01 日石硝子工業株式会社 会社概要



- 日石硝子工業株式会社
NISSEKI GLASS INDUSTRY CO., LTD.
- 代表取締役社長 関谷 智宏
- 設立 2025年3月31日
- 本社 富山県高岡市戸出栄町 7 番地
- 資本金 10百万円
- 売上高 674百万円（2024年10月期）

03 グループ化の目的

日石硝子工業は、ガラス加工製品の製造・販売を行っている企業であり、大手企業への OEM 供給をはじめ、自社オリジナル製品の販売も展開するなど、住宅・オフィス・商業施設等向けに幅広く製品を供給している企業です。

グループ化に伴い、ガラス加工製品の製造・販売を手掛ける新光硝子工業グループとの間で、ガラス製品の技術開発面での連携、原材料等の調達面におけるスケールメリット、商品ラインナップの拡充等の様々なシナジーが期待でき、ガラス加工製品の製造販売事業の規模拡大及び収益性の向上が実現できるものと考えております。

02 技術紹介

● 液晶調光ガラス マジックヴェール



● 装飾合わせガラス



ヨドバシカメラマルチメディア梅田様 立体歩道橋